

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

経済金融環境

当連結会計年度を顧みますと、原油価格が上昇・高止まりする中、海外では、欧州経済が緩やかに回復したほか、米国経済も景気拡大が続き、アジア経済においても中国等で高い成長が継続しました。わが国経済におきましても、設備投資の拡大に加え、個人消費が緩やかに増加するなど、景気は回復を続けました。

金融資本市場におきましては、短期市場金利は期中を通じてほぼゼロ%で推移しましたが、本年3月、日本銀行は、消費者物価が前年比プラスに転じたこと等から、量的緩和政策を解除し、金利を操作目標とする金融政策に戻しました。一方、長期市場金利は、新発10年物国債の流通利回りが、昨年6月末にかけて低下したものの、その後は景気回復を背景に上昇傾向に転じ、期末には1.7%台にまで上昇しました。株価は、概ね上昇傾向を辿り、前期末に比べて大幅に上昇しました。

こうした中、金融界におきましては、昨年10月に郵政民営化法が成立し、昨年11月に政策金融改革の基本方針が策定されるなど、公的金融のあり方の見直しに向けた動きが進展しました。また、昨年10月に銀行代理店制度の見直しを柱とする銀行法等の一部を改正する法律が成立し、昨年12月には銀行の保険販売における一部商品が追加解禁される一方、本年6月には幅広い金融商品について横断的な利用者保護の枠組みを整備する金融商品取引法が成立しました。

経営戦略

このような経済金融環境のもと、当行グループは、企業価値の持続的な向上のため、収益性及び成長性の高い分野に積極的に取り組んでまいりました。

個人向けのコンサルティング業務、法人向けのソリューションビジネス等の戦略分野の強化、グループ総合力を活かしたサービスの提供に取り組むとともに、投資銀行業務、コンシューマー・ファイナンス業務等でのアライアンスを積極的に推進し、グループ収益力の強化を進めてまいりました。

営業の成果

当連結会計年度における業績は以下のとおりとなりました。

業容面では、預金は、前連結会計年度末対比 2 兆3,553億円増加して70兆8,641億円となり、譲渡性預金は、同5,128億円増加して 3 兆2,736億円となりました。

一方、貸出金は、同 2 兆2,918億円増加し、57兆4,407億円となりました。

総資産は、同 6 兆9,402億円増加し、104兆4,185億円となりました。

損益面では、経常収益は、株式売却益等のその他経常収益及び特定取引収益が減少する一方、貸出金利息等の資金運用収益、役務取引等収益及びその他業務収益が増加したこと等を要因に、前連結会計年度対比2.2%増の 2 兆7,502億円となりました。経常費用は、預金利息等の資金調達費用が増加したものの、前連結会計年度において将来リスクへの対応力強化を目的として貸倒引当金の積み増し等を行ったことにより、当連結会計年度の貸倒引当金繰入額等が減少したことから、その他経常費用が大幅に減少し、前連結会計年度対比32.3%減の 1 兆8,882億円となりました。その結果、経常利益は8,620億円、特別損益等を勘案した当期純利益は5,635億円となりました。

純資産額は、当期純利益の計上、その他有価証券評価差額金の増加等により、前連結会計年度末対比9,643億円増加して 3 兆5,982億円となりました。

事業の種類別では、銀行業、その他事業の内部取引消去前の総資産シェアは、銀行業が96(前連結会計年度対比+0)%、その他事業が4(同0)%、同経常収益シェアが、銀行業が86(前連結会計年度対比0)%、その他事業が14(同+0)%となりました。

また、所在地別の内部取引消去前の総資産シェアは、日本が89(前連結会計年度対比1)%、米州が5(同+0)%、欧州、アジア・オセアニアは、各々3(同+1)%、3(同+0)%、同経常収益シェアは、日本が82(前連結会計年度対比6)%、米州が8(同+2)%、欧州、アジア・オセアニアは、各々4(同+2)%、6(同+2)%となりました。

連結自己資本比率は、10.77%となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度のキャッシュ・フローは、資金の運用・調達や貸出金・預金の増減等の「営業活動によるキャッシュ・フロー」が前連結会計年度対比 6 兆4,307億円増加して + 2 兆5,520億円、有価証券の取得・売却や動産不動産及びリース資産の取得・売却等の「投資活動によるキャッシュ・フロー」が同 3 兆3,477億円減少して - 3,812億円、劣後調達等の「財務活動によるキャッシュ・フロー」が同2,555億円減少して + 543億円となりました。その結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末対比 2 兆2,289億円増加して 5 兆1,552億円となりました。

(3) 国内・海外別業績

国内・海外別収支

当連結会計年度の資金運用収支は前連結会計年度比122億円の減益となる1兆1,403億円、信託報酬は同60億円の増益となる86億円、役務取引等収支は同877億円の増益となる5,068億円、特定取引収支は同1,115億円の減益となる328億円、その他業務収支は同826億円の増益となる2,227億円となりました。

国内・海外別に見ますと、国内の資金運用収支は前連結会計年度比609億円の減益となる1兆39億円、信託報酬は同60億円の増益となる86億円、役務取引等収支は同783億円の増益となる4,618億円、特定取引収支は同1,089億円の減益となる280億円、その他業務収支は同848億円の増益となる2,150億円となりました。

海外の資金運用収支は前連結会計年度比394億円の増益となる1,474億円、役務取引等収支は同100億円の増益となる456億円、特定取引収支は同26億円の減益となる47億円、その他業務収支は同27億円の減益となる71億円となりました。

| 種類 | 期別 | 国内 | 海外 | 相殺消去額() | 合計 |
|-----------|---------|-----------|---------|----------|-----------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) | 金額(百万円) | 金額(百万円) |
| 資金運用収支 | 前連結会計年度 | 1,064,962 | 108,034 | 20,329 | 1,152,667 |
| | 当連結会計年度 | 1,003,969 | 147,497 | 11,092 | 1,140,374 |
| うち資金運用収益 | 前連結会計年度 | 1,320,829 | 219,685 | 49,996 | 1,490,519 |
| | 当連結会計年度 | 1,273,062 | 392,619 | 35,372 | 1,630,309 |
| うち資金調達費用 | 前連結会計年度 | 255,867 | 111,651 | 29,666 | 337,851 |
| | 当連結会計年度 | 269,092 | 245,122 | 24,279 | 489,935 |
| 信託報酬 | 前連結会計年度 | 2,609 | | | 2,609 |
| | 当連結会計年度 | 8,626 | | | 8,626 |
| 役務取引等収支 | 前連結会計年度 | 383,511 | 35,633 | 10 | 419,155 |
| | 当連結会計年度 | 461,860 | 45,686 | 666 | 506,879 |
| うち役務取引等収益 | 前連結会計年度 | 474,455 | 40,169 | 2,799 | 511,824 |
| | 当連結会計年度 | 557,992 | 49,288 | 2,421 | 604,859 |
| うち役務取引等費用 | 前連結会計年度 | 90,943 | 4,535 | 2,809 | 92,669 |
| | 当連結会計年度 | 96,132 | 3,601 | 1,754 | 97,979 |
| 特定取引収支 | 前連結会計年度 | 136,997 | 7,389 | | 144,387 |
| | 当連結会計年度 | 28,096 | 4,710 | | 32,807 |
| うち特定取引収益 | 前連結会計年度 | 138,258 | 9,401 | 3,073 | 144,587 |
| | 当連結会計年度 | 36,163 | 18,099 | 21,455 | 32,807 |
| うち特定取引費用 | 前連結会計年度 | 1,260 | 2,011 | 3,073 | 199 |
| | 当連結会計年度 | 8,066 | 13,389 | 21,455 | |
| その他業務収支 | 前連結会計年度 | 130,263 | 9,944 | 107 | 140,101 |
| | 当連結会計年度 | 215,075 | 7,157 | 474 | 222,708 |
| うちその他業務収益 | 前連結会計年度 | 298,745 | 14,310 | 203 | 312,852 |
| | 当連結会計年度 | 341,621 | 19,504 | 880 | 360,246 |
| うちその他業務費用 | 前連結会計年度 | 168,482 | 4,365 | 96 | 172,751 |
| | 当連結会計年度 | 126,546 | 12,346 | 1,354 | 137,538 |

- (注) 1 「国内」とは当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。
 2 「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。
 3 金銭の信託に係る収益及び費用を「その他経常収益」「その他経常費用」に計上しておりますので、金銭の信託運用見合費用(前連結会計年度3百万円、当連結会計年度1百万円)を資金調達費用から控除して表示しております。
 4 「国内」「海外」間の内部取引は「相殺消去額()」欄に表示しております。

国内・海外別資金運用 / 調達状況

当連結会計年度の資金運用勘定の平均残高は前連結会計年度比8,225億円増加して85兆8,602億円、利回りは同0.15%増加して1.90%となりました。また、資金調達勘定の平均残高は同1兆6,803億円増加して88兆7,867億円、利回りは同0.16%増加して0.55%となりました。

国内・海外別に見ますと、国内の資金運用勘定の平均残高は前連結会計年度比1兆102億円減少して76兆8,600億円、利回りは同0.04%低下して1.66%となりました。また、資金調達勘定の平均残高は同772億円減少して82兆4,223億円、利回りは同0.02%増加して0.33%となりました。

海外の資金運用勘定の平均残高は前連結会計年度比1兆5,785億円増加して9兆6,217億円、利回りは同1.35%増加して4.08%となりました。また、資金調達勘定の平均残高は同1兆5,042億円増加して6兆9,881億円、利回りは同1.47%増加して3.51%となりました。

ア 国内

| 種類 | 期別 | 平均残高 | 利息 | 利回り |
|----------------|---------|------------|-----------|------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) | (%) |
| 資金運用勘定 | 前連結会計年度 | 77,870,320 | 1,320,829 | 1.70 |
| | 当連結会計年度 | 76,860,046 | 1,273,062 | 1.66 |
| うち貸出金 | 前連結会計年度 | 50,866,716 | 974,378 | 1.92 |
| | 当連結会計年度 | 50,705,981 | 921,387 | 1.82 |
| うち有価証券 | 前連結会計年度 | 23,248,647 | 247,905 | 1.07 |
| | 当連結会計年度 | 21,493,008 | 290,830 | 1.35 |
| うちコールローン及び買入手形 | 前連結会計年度 | 587,437 | 4,116 | 0.70 |
| | 当連結会計年度 | 713,123 | 7,773 | 1.09 |
| うち買現先勘定 | 前連結会計年度 | 92,885 | 6 | 0.01 |
| | 当連結会計年度 | 98,096 | 8 | 0.01 |
| うち債券貸借取引支払保証金 | 前連結会計年度 | 874,138 | 185 | 0.02 |
| | 当連結会計年度 | 1,411,749 | 613 | 0.04 |
| うち預け金 | 前連結会計年度 | 1,217,735 | 20,579 | 1.69 |
| | 当連結会計年度 | 1,390,836 | 23,683 | 1.70 |
| 資金調達勘定 | 前連結会計年度 | 82,499,517 | 255,867 | 0.31 |
| | 当連結会計年度 | 82,422,311 | 269,092 | 0.33 |
| うち預金 | 前連結会計年度 | 62,999,470 | 67,477 | 0.11 |
| | 当連結会計年度 | 64,276,673 | 100,809 | 0.16 |
| うち譲渡性預金 | 前連結会計年度 | 3,620,709 | 813 | 0.02 |
| | 当連結会計年度 | 3,506,890 | 870 | 0.02 |
| うちコールマネー及び売渡手形 | 前連結会計年度 | 4,836,442 | 1,436 | 0.03 |
| | 当連結会計年度 | 5,910,627 | 1,310 | 0.02 |
| うち売現先勘定 | 前連結会計年度 | 572,714 | 18 | 0.00 |
| | 当連結会計年度 | 213,153 | 6 | 0.00 |
| うち債券貸借取引受入担保金 | 前連結会計年度 | 4,645,843 | 51,853 | 1.12 |
| | 当連結会計年度 | 2,771,613 | 58,292 | 2.10 |
| うちコマーシャル・ペーパー | 前連結会計年度 | 4,528 | 1 | 0.04 |
| | 当連結会計年度 | 289 | 0 | 0.22 |
| うち借入金 | 前連結会計年度 | 1,798,989 | 51,055 | 2.84 |
| | 当連結会計年度 | 1,486,282 | 41,865 | 2.82 |
| うち短期社債 | 前連結会計年度 | 136 | 0 | 0.12 |
| | 当連結会計年度 | 3,791 | 4 | 0.12 |
| うち社債 | 前連結会計年度 | 3,487,399 | 54,426 | 1.56 |
| | 当連結会計年度 | 3,723,495 | 61,711 | 1.66 |

- (注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。
- 2 平均残高は、原則として日々の残高の平均に基づいて算出しておりますが、一部の国内連結子会社については、週末毎、月末毎ないし半年毎の残高に基づく平均残高を使用しております。
- 3 無利息預け金の平均残高(前連結会計年度1,670,430百万円、当連結会計年度2,787,783百万円)を資金運用勘定から控除して表示しております。
- 4 金銭の信託に係る収益及び費用を「その他経常収益」「その他経常費用」に計上しておりますので、金銭の信託の平均残高(前連結会計年度3,629百万円、当連結会計年度1,717百万円)を資金運用勘定から、金銭の信託運用見合額の平均残高(前連結会計年度3,629百万円、当連結会計年度1,717百万円)及び利息(前連結会計年度3百万円、当連結会計年度1百万円)を資金調達勘定から、それぞれ控除して表示しております。

イ 海外

| 種類 | 期別 | 平均残高 | 利息 | 利回り |
|--------------------|---------|-----------|---------|------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) | (%) |
| 資金運用勘定 | 前連結会計年度 | 8,043,184 | 219,685 | 2.73 |
| | 当連結会計年度 | 9,621,722 | 392,619 | 4.08 |
| うち貸出金 | 前連結会計年度 | 5,388,426 | 166,477 | 3.09 |
| | 当連結会計年度 | 6,652,589 | 283,993 | 4.27 |
| うち有価証券 | 前連結会計年度 | 904,213 | 28,944 | 3.20 |
| | 当連結会計年度 | 949,114 | 37,627 | 3.96 |
| うちコールローン及び 買入手形 | 前連結会計年度 | 121,023 | 2,979 | 2.46 |
| | 当連結会計年度 | 178,988 | 6,556 | 3.66 |
| うち買現先勘定 | 前連結会計年度 | 155,602 | 3,157 | 2.03 |
| | 当連結会計年度 | 182,955 | 6,758 | 3.69 |
| うち債券貸借取引支払 保証金 | 前連結会計年度 | | | |
| | 当連結会計年度 | | | |
| うち預け金 | 前連結会計年度 | 1,020,309 | 17,709 | 1.74 |
| | 当連結会計年度 | 1,182,483 | 37,742 | 3.19 |
| 資金調達勘定 | 前連結会計年度 | 5,483,853 | 111,651 | 2.04 |
| | 当連結会計年度 | 6,988,102 | 245,122 | 3.51 |
| うち預金 | 前連結会計年度 | 4,105,888 | 66,220 | 1.61 |
| | 当連結会計年度 | 5,705,664 | 167,488 | 2.94 |
| うち譲渡性預金 | 前連結会計年度 | 122,085 | 2,912 | 2.39 |
| | 当連結会計年度 | 303,226 | 12,033 | 3.97 |
| うちコールマネー及び 売渡手形 | 前連結会計年度 | 160,044 | 2,480 | 1.55 |
| | 当連結会計年度 | 145,523 | 4,658 | 3.20 |
| うち売現先勘定 | 前連結会計年度 | 212,983 | 3,454 | 1.62 |
| | 当連結会計年度 | 208,672 | 7,440 | 3.57 |
| うち債券貸借取引受入 担保金 | 前連結会計年度 | | | |
| | 当連結会計年度 | | | |
| うちコマースナル・ ペーパー | 前連結会計年度 | | | |
| | 当連結会計年度 | | | |
| うち借入金 | 前連結会計年度 | 100,866 | 3,109 | 3.08 |
| | 当連結会計年度 | 93,085 | 2,182 | 2.34 |
| うち短期社債 | 前連結会計年度 | | | |
| | 当連結会計年度 | | | |
| うち社債 | 前連結会計年度 | 765,713 | 29,017 | 3.79 |
| | 当連結会計年度 | 521,556 | 23,131 | 4.44 |

(注) 1 「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。

2 平均残高は、原則として日々の残高の平均に基づいて算出しておりますが、一部の海外連結子会社の平均残高については、週末毎、月末毎ないし半年毎の残高に基づく平均残高を使用しております。

3 無利息預け金の平均残高(前連結会計年度34,722百万円、当連結会計年度32,268百万円)を資金運用勘定から控除して表示しております。

ウ 合計

| 種類 | 期別 | 平均残高(百万円) | | | 利息(百万円) | | | 利回り (%) |
|--------------------|---------|------------|--------------|------------|-----------|--------------|-----------|------------|
| | | 小計 | 相殺消去額 () | 合計 | 小計 | 相殺消去額 () | 合計 | |
| 資金運用勘定 | 前連結会計年度 | 85,913,504 | 875,788 | 85,037,716 | 1,540,515 | 49,996 | 1,490,519 | 1.75 |
| | 当連結会計年度 | 86,481,768 | 621,521 | 85,860,247 | 1,665,681 | 35,372 | 1,630,309 | 1.90 |
| うち貸出金 | 前連結会計年度 | 56,255,142 | 744,714 | 55,510,427 | 1,140,855 | 27,560 | 1,113,294 | 2.01 |
| | 当連結会計年度 | 57,358,570 | 601,793 | 56,756,777 | 1,205,381 | 22,713 | 1,182,668 | 2.08 |
| うち有価証券 | 前連結会計年度 | 24,152,860 | | 24,152,860 | 276,849 | 20,329 | 256,520 | 1.06 |
| | 当連結会計年度 | 22,442,122 | | 22,442,122 | 328,457 | 11,101 | 317,356 | 1.41 |
| うちコールローン及び 買入手形 | 前連結会計年度 | 708,460 | | 708,460 | 7,095 | | 7,095 | 1.00 |
| | 当連結会計年度 | 892,111 | | 892,111 | 14,330 | | 14,330 | 1.61 |
| うち買現先勘定 | 前連結会計年度 | 248,487 | | 248,487 | 3,163 | | 3,163 | 1.27 |
| | 当連結会計年度 | 281,051 | | 281,051 | 6,767 | | 6,767 | 2.41 |
| うち債券貸借取引支払 保証金 | 前連結会計年度 | 874,138 | | 874,138 | 185 | | 185 | 0.02 |
| | 当連結会計年度 | 1,411,749 | | 1,411,749 | 613 | | 613 | 0.04 |
| うち預け金 | 前連結会計年度 | 2,238,044 | 130,904 | 2,107,140 | 38,289 | 2,105 | 36,183 | 1.72 |
| | 当連結会計年度 | 2,573,319 | 17,898 | 2,555,420 | 61,425 | 1,558 | 59,867 | 2.34 |
| 資金調達勘定 | 前連結会計年度 | 87,983,371 | 876,956 | 87,106,414 | 367,518 | 29,666 | 337,851 | 0.39 |
| | 当連結会計年度 | 89,410,414 | 623,669 | 88,786,744 | 514,214 | 24,279 | 489,935 | 0.55 |
| うち預金 | 前連結会計年度 | 67,105,359 | 132,064 | 66,973,294 | 133,697 | 2,105 | 131,591 | 0.20 |
| | 当連結会計年度 | 69,982,338 | 20,023 | 69,962,314 | 268,297 | 1,558 | 266,739 | 0.38 |
| うち譲渡性預金 | 前連結会計年度 | 3,742,795 | | 3,742,795 | 3,726 | | 3,726 | 0.10 |
| | 当連結会計年度 | 3,810,116 | | 3,810,116 | 12,904 | | 12,904 | 0.34 |
| うちコールマネー及び 売渡手形 | 前連結会計年度 | 4,996,487 | | 4,996,487 | 3,917 | | 3,917 | 0.08 |
| | 当連結会計年度 | 6,056,150 | | 6,056,150 | 5,969 | | 5,969 | 0.10 |
| うち売現先勘定 | 前連結会計年度 | 785,698 | | 785,698 | 3,472 | | 3,472 | 0.44 |
| | 当連結会計年度 | 421,826 | | 421,826 | 7,447 | | 7,447 | 1.77 |
| うち債券貸借取引受入 担保金 | 前連結会計年度 | 4,645,843 | | 4,645,843 | 51,853 | | 51,853 | 1.12 |
| | 当連結会計年度 | 2,771,613 | | 2,771,613 | 58,292 | | 58,292 | 2.10 |
| うちコマース・ ペーパー | 前連結会計年度 | 4,528 | | 4,528 | 1 | | 1 | 0.04 |
| | 当連結会計年度 | 289 | | 289 | 0 | | 0 | 0.22 |
| うち借入金 | 前連結会計年度 | 1,899,855 | 744,722 | 1,155,133 | 54,164 | 27,560 | 26,603 | 2.30 |
| | 当連結会計年度 | 1,579,367 | 601,816 | 977,550 | 44,047 | 22,721 | 21,326 | 2.18 |
| うち短期社債 | 前連結会計年度 | 136 | | 136 | 0 | | 0 | 0.12 |
| | 当連結会計年度 | 3,791 | | 3,791 | 4 | | 4 | 0.12 |
| うち社債 | 前連結会計年度 | 4,253,112 | | 4,253,112 | 83,443 | | 83,443 | 1.96 |
| | 当連結会計年度 | 4,245,052 | | 4,245,052 | 84,843 | | 84,843 | 2.00 |

(注) 1 「国内」、「海外」間の内部取引は「相殺消去額()」欄に表示しております。

2 平均残高は、原則として日々の残高の平均に基づいて算出しておりますが、一部の連結子会社については、週末毎、月末毎ないし半年毎の残高に基づく平均残高を使用しております。

3 無利息預け金の平均残高(前連結会計年度1,703,992百万円、当連結会計年度2,817,927百万円)を資金運用勘定から控除して表示しております。

4 金銭の信託に係る収益及び費用を「その他経常収益」「その他経常費用」に計上しておりますので、金銭の信託の平均残高(前連結会計年度3,629百万円、当連結会計年度1,717百万円)を資金運用勘定から、金銭の信託運用見合額の平均残高(前連結会計年度3,629百万円、当連結会計年度1,717百万円)及び利息(前連結会計年度3百万円、当連結会計年度1百万円)を資金調達勘定から、それぞれ控除して表示しております。

国内・海外別役務取引の状況

当連結会計年度の役務取引等収益は前連結会計年度比930億円増加して6,048億円、一方役務取引等費用は同53億円増加して979億円となったことから、役務取引等収支は同877億円の増益となる5,068億円となりました。

国内・海外別に見ますと、国内の役務取引等収益は前連結会計年度比835億円増加して5,579億円、一方役務取引等費用は同51億円増加して961億円となったことから、役務取引等収支は同783億円の増益となる4,618億円となりました。

海外の役務取引等収益は前連結会計年度比91億円増加して492億円、一方役務取引等費用は同9億円減少して36億円となったことから、役務取引等収支は同100億円の増益となる456億円となりました。

| 種類 | 期別 | 国内 | 海外 | 相殺消去額() | 合計 |
|----------------|---------|---------|---------|----------|---------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) | 金額(百万円) | 金額(百万円) |
| 役務取引等収益 | 前連結会計年度 | 474,455 | 40,169 | 2,799 | 511,824 |
| | 当連結会計年度 | 557,992 | 49,288 | 2,421 | 604,859 |
| うち預金・貸出業務 | 前連結会計年度 | 23,458 | 23,974 | 2,317 | 45,116 |
| | 当連結会計年度 | 24,305 | 32,250 | 1,174 | 55,381 |
| うち為替業務 | 前連結会計年度 | 118,292 | 7,009 | 2 | 125,299 |
| | 当連結会計年度 | 123,757 | 8,663 | 0 | 132,420 |
| うち証券関連業務 | 前連結会計年度 | 51,973 | 0 | | 51,973 |
| | 当連結会計年度 | 64,561 | 211 | | 64,773 |
| うち代理業務 | 前連結会計年度 | 19,305 | | | 19,305 |
| | 当連結会計年度 | 18,938 | | | 18,938 |
| うち保護預り・貸金庫業務 | 前連結会計年度 | 6,732 | 3 | | 6,736 |
| | 当連結会計年度 | 7,380 | 4 | | 7,384 |
| うち保証業務 | 前連結会計年度 | 36,153 | 3,463 | 402 | 39,213 |
| | 当連結会計年度 | 40,246 | 1,472 | 482 | 41,236 |
| うちクレジットカード関連業務 | 前連結会計年度 | 7,078 | | | 7,078 |
| | 当連結会計年度 | 7,056 | | | 7,056 |
| 役務取引等費用 | 前連結会計年度 | 90,943 | 4,535 | 2,809 | 92,669 |
| | 当連結会計年度 | 96,132 | 3,601 | 1,754 | 97,979 |
| うち為替業務 | 前連結会計年度 | 23,071 | 1,529 | 363 | 24,236 |
| | 当連結会計年度 | 24,048 | 1,827 | 7 | 25,868 |

(注) 1 「国内」とは当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

2 「海外」とは当行の海外店及び海外連結子会社であります。

3 「国内」、「海外」間の内部取引は、「相殺消去額()」欄に表示しております。

国内・海外別特定取引の状況

ア 特定取引収益・費用の内訳

当連結会計年度の特定取引収益は前連結会計年度比1,117億円減少して328億円、一方特定取引費用は同1億円減少したことから、特定取引収支は同1,115億円の減益となる328億円となりました。

国内・海外別に見ますと、国内の特定取引収益は前連結会計年度比1,020億円減少して361億円、一方特定取引費用は同68億円増加して80億円となったことから、特定取引収支は同1,089億円の減益となる280億円となりました。

海外の特定取引収益は前連結会計年度比86億円増加して180億円、一方特定取引費用は同113億円増加して133億円となったことから、特定取引収支は同26億円の減益となる47億円となりました。

| 種類 | 期別 | 国内 | 海外 | 相殺消去額() | 合計 |
|------------------|---------|---------|---------|----------|---------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) | 金額(百万円) | 金額(百万円) |
| 特定取引収益 | 前連結会計年度 | 138,258 | 9,401 | 3,073 | 144,587 |
| | 当連結会計年度 | 36,163 | 18,099 | 21,455 | 32,807 |
| うち商品 有価証券収益 | 前連結会計年度 | 7,857 | | | 7,857 |
| | 当連結会計年度 | 12,662 | 217 | | 12,880 |
| うち特定取引 有価証券収益 | 前連結会計年度 | | | | |
| | 当連結会計年度 | 1,172 | 57 | | 1,229 |
| うち特定金融 派生商品収益 | 前連結会計年度 | 129,965 | 9,332 | 3,073 | 136,224 |
| | 当連結会計年度 | 22,230 | 17,824 | 21,455 | 18,599 |
| うちその他の 特定取引収益 | 前連結会計年度 | 435 | 68 | | 504 |
| | 当連結会計年度 | 97 | | | 97 |
| 特定取引費用 | 前連結会計年度 | 1,260 | 2,011 | 3,073 | 199 |
| | 当連結会計年度 | 8,066 | 13,389 | 21,455 | |
| うち商品 有価証券費用 | 前連結会計年度 | | | | |
| | 当連結会計年度 | | | | |
| うち特定取引 有価証券費用 | 前連結会計年度 | 189 | 10 | | 199 |
| | 当連結会計年度 | | | | |
| うち特定金融 派生商品費用 | 前連結会計年度 | 1,071 | 2,001 | 3,073 | |
| | 当連結会計年度 | 8,066 | 13,389 | 21,455 | |
| うちその他の 特定取引費用 | 前連結会計年度 | | | | |
| | 当連結会計年度 | | | | |

(注) 1 「国内」とは当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

2 「海外」とは当行の海外店及び海外連結子会社であります。

3 「国内」、「海外」間の内部取引は、「相殺消去額()」欄に表示しております。

イ 特定取引資産・負債の内訳(未残)

当連結会計年度末の特定取引資産残高は前連結会計年度末比3,100億円増加して4兆791億円、特定取引負債残高は同7,987億円増加して2兆9,092億円となりました。

国内・海外別に見ますと、国内の特定取引資産残高は前連結会計年度末比3,415億円増加して3兆7,101億円、特定取引負債残高は同8,047億円増加して2兆5,222億円となりました。

海外の特定取引資産残高は前連結会計年度末比4億円増加して4,121億円、特定取引負債残高は同259億円増加して4,301億円となりました。

| 種類 | 期別 | 国内 | 海外 | 相殺消去額() | 合計 |
|--------------------|---------|-----------|---------|----------|-----------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) | 金額(百万円) | 金額(百万円) |
| 特定取引資産 | 前連結会計年度 | 3,368,619 | 411,698 | 11,244 | 3,769,073 |
| | 当連結会計年度 | 3,710,140 | 412,178 | 43,212 | 4,079,106 |
| うち商品有価証券 | 前連結会計年度 | 198,646 | 71,032 | | 269,678 |
| | 当連結会計年度 | 122,278 | 40,764 | | 163,042 |
| うち商品有価証券 派生商品 | 前連結会計年度 | 812 | | | 812 |
| | 当連結会計年度 | 275 | | | 275 |
| うち特定取引 有価証券 | 前連結会計年度 | | | | |
| | 当連結会計年度 | | | | |
| うち特定取引 有価証券派生商品 | 前連結会計年度 | 2,033 | | | 2,033 |
| | 当連結会計年度 | 4,160 | 1 | | 4,162 |
| うち特定金融 派生商品 | 前連結会計年度 | 2,110,833 | 340,666 | 11,244 | 2,440,254 |
| | 当連結会計年度 | 2,657,868 | 371,412 | 43,212 | 2,986,069 |
| うちその他の 特定取引資産 | 前連結会計年度 | 1,056,293 | | | 1,056,293 |
| | 当連結会計年度 | 925,557 | | | 925,557 |
| 特定取引負債 | 前連結会計年度 | 1,717,521 | 404,196 | 11,244 | 2,110,473 |
| | 当連結会計年度 | 2,522,266 | 430,185 | 43,212 | 2,909,239 |
| うち売付商品債券 | 前連結会計年度 | 34,540 | 34,878 | | 69,419 |
| | 当連結会計年度 | 118,803 | 533 | | 119,337 |
| うち商品有価証券 派生商品 | 前連結会計年度 | 524 | | | 524 |
| | 当連結会計年度 | 1,238 | | | 1,238 |
| うち特定取引 売付債券 | 前連結会計年度 | | | | |
| | 当連結会計年度 | | | | |
| うち特定取引 有価証券派生商品 | 前連結会計年度 | 2,061 | | | 2,061 |
| | 当連結会計年度 | 4,079 | | | 4,079 |
| うち特定金融 派生商品 | 前連結会計年度 | 1,680,394 | 369,318 | 11,244 | 2,038,468 |
| | 当連結会計年度 | 2,398,145 | 429,651 | 43,212 | 2,784,584 |
| うちその他の 特定取引負債 | 前連結会計年度 | | | | |
| | 当連結会計年度 | | | | |

(注) 1 「国内」とは当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

2 「海外」とは当行の海外店及び海外連結子会社であります。

3 「国内」、「海外」間の内部取引は、「相殺消去額()」欄に表示しております。

国内・海外別預金残高の状況

預金の種類別残高(末残)

| 種類 | 期別 | 国内 | 海外 | 合計 |
|---------|---------|------------|-----------|------------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) | 金額(百万円) |
| 預金合計 | 前連結会計年度 | 64,118,017 | 4,390,853 | 68,508,871 |
| | 当連結会計年度 | 65,841,090 | 5,023,096 | 70,864,186 |
| うち流動性預金 | 前連結会計年度 | 39,038,245 | 3,736,715 | 42,774,960 |
| | 当連結会計年度 | 41,753,248 | 4,173,635 | 45,926,883 |
| うち定期性預金 | 前連結会計年度 | 20,513,692 | 645,371 | 21,159,064 |
| | 当連結会計年度 | 20,024,287 | 842,709 | 20,866,997 |
| うちその他 | 前連結会計年度 | 4,566,079 | 8,767 | 4,574,846 |
| | 当連結会計年度 | 4,063,554 | 6,750 | 4,070,305 |
| 譲渡性預金 | 前連結会計年度 | 2,627,486 | 133,283 | 2,760,770 |
| | 当連結会計年度 | 2,671,986 | 601,657 | 3,273,643 |
| 総合計 | 前連結会計年度 | 66,745,504 | 4,524,137 | 71,269,641 |
| | 当連結会計年度 | 68,513,076 | 5,624,753 | 74,137,830 |

(注) 1 「国内」とは当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

2 「海外」とは当行の海外店及び海外連結子会社であります。

3 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

4 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

国内・海外別貸出金残高の状況
ア 業種別貸出状況(残高・構成比)

| 業種別 | 平成17年3月31日現在 | | 平成18年3月31日現在 | |
|-----------------------|--------------|--------|--------------|--------|
| | 貸出金残高 | 構成比 | 貸出金残高 | 構成比 |
| | 金額(百万円) | (%) | 金額(百万円) | (%) |
| 国内 (除く特別国際金融取引勘定分) | 50,384,379 | 100.00 | 51,454,786 | 100.00 |
| 製造業 | 5,657,329 | 11.23 | 5,516,716 | 10.72 |
| 農業、林業、漁業及び鉱業 | 134,289 | 0.27 | 140,677 | 0.27 |
| 建設業 | 1,829,553 | 3.63 | 1,488,462 | 2.89 |
| 運輸、情報通信、公益事業 | 2,868,583 | 5.69 | 2,804,338 | 5.45 |
| 卸売・小売業 | 5,681,187 | 11.28 | 5,543,468 | 10.78 |
| 金融・保険業 | 4,543,387 | 9.02 | 4,551,941 | 8.85 |
| 不動産業 | 6,937,379 | 13.77 | 7,379,265 | 14.34 |
| 各種サービス業 | 6,356,210 | 12.61 | 6,350,489 | 12.34 |
| 地方公共団体 | 656,366 | 1.30 | 735,327 | 1.43 |
| その他 | 15,720,093 | 31.20 | 16,944,100 | 32.93 |
| 海外及び特別国際金融取引勘定分 | 4,764,549 | 100.00 | 5,985,975 | 100.00 |
| 政府等 | 83,325 | 1.75 | 46,892 | 0.78 |
| 金融機関 | 406,025 | 8.52 | 549,081 | 9.17 |
| 商工業 | 4,077,950 | 85.59 | 5,027,249 | 83.99 |
| その他 | 197,247 | 4.14 | 362,752 | 6.06 |
| 合計 | 55,148,929 | | 57,440,761 | |

(注) 1 「国内」とは当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

2 「海外」とは当行の海外店及び海外連結子会社であります。

イ 外国政府等向け債権残高(国別)

| 期別 | 国別 | 外国政府等向け債権残高 |
|--------------|-----------------|-------------|
| | | 金額(百万円) |
| 平成18年3月31日現在 | インドネシア | 35,509 |
| | アルゼンチン | 2 |
| | 合計 | 35,511 |
| | (資産の総額に対する割合：%) | (0.03) |
| 平成17年3月31日現在 | インドネシア | 39,959 |
| | その他(4カ国) | 205 |
| | 合計 | 40,164 |
| | (資産の総額に対する割合：%) | (0.04) |

(注) 対象国の政治経済情勢等を勘案して必要と認められる金額を引き当てる特定海外債権引当勘定の引当対象とされる債権残高を掲げております。

国内・海外別有価証券の状況

有価証券残高(未残)

| 種類 | 期別 | 国内 | 海外 | 合計 |
|--------|---------|------------|---------|------------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) | 金額(百万円) |
| 国債 | 前連結会計年度 | 13,636,577 | | 13,636,577 |
| | 当連結会計年度 | 11,566,093 | | 11,566,093 |
| 地方債 | 前連結会計年度 | 486,884 | | 486,884 |
| | 当連結会計年度 | 607,777 | | 607,777 |
| 社債 | 前連結会計年度 | 3,243,443 | | 3,243,443 |
| | 当連結会計年度 | 3,958,081 | | 3,958,081 |
| 株式 | 前連結会計年度 | 3,316,551 | | 3,316,551 |
| | 当連結会計年度 | 4,244,439 | | 4,244,439 |
| その他の証券 | 前連結会計年度 | 2,560,671 | 774,484 | 3,335,155 |
| | 当連結会計年度 | 3,899,188 | 958,135 | 4,857,324 |
| 合計 | 前連結会計年度 | 23,244,127 | 774,484 | 24,018,612 |
| | 当連結会計年度 | 24,275,580 | 958,135 | 25,233,716 |

(注) 1 「国内」とは当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

2 「海外」とは当行の海外店及び海外連結子会社であります。

3 「その他の証券」には、外国債券及び外国株式を含んでおります。

(4) 「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務の状況

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営む会社は、提出会社1社であります。

信託財産の運用 / 受入の状況(信託財産残高表)

| 資産 | | | | |
|--------|---------------------------|--------|---------------------------|--------|
| 科目 | 前連結会計年度 (平成17年3月31日現在) | | 当連結会計年度 (平成18年3月31日現在) | |
| | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) |
| 貸出金 | 9,780 | 1.26 | 7,870 | 0.60 |
| 有価証券 | 81,840 | 10.53 | 238,205 | 18.24 |
| 受託有価証券 | 34,166 | 4.40 | 33,590 | 2.57 |
| 金銭債権 | 600,618 | 77.28 | 706,349 | 54.09 |
| 動産不動産 | | | 85 | 0.01 |
| その他債権 | 315 | 0.04 | 1,216 | 0.09 |
| 銀行勘定貸 | 50,457 | 6.49 | 318,597 | 24.40 |
| 合計 | 777,177 | 100.00 | 1,305,915 | 100.00 |

| 負債 | | | | |
|---------|---------------------------|--------|---------------------------|--------|
| 科目 | 前連結会計年度 (平成17年3月31日現在) | | 当連結会計年度 (平成18年3月31日現在) | |
| | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) |
| 金銭信託 | 101,323 | 13.04 | 530,255 | 40.60 |
| 有価証券の信託 | 34,166 | 4.40 | 33,590 | 2.57 |
| 金銭債権の信託 | 480,147 | 61.78 | 603,656 | 46.23 |
| 包括信託 | 161,539 | 20.78 | 138,413 | 10.60 |
| 合計 | 777,177 | 100.00 | 1,305,915 | 100.00 |

(注) 1 共同信託他社管理財産はありません。

2 元本補てん契約のある信託については取り扱っておりません。

貸出金残高の状況(業種別貸出状況)

| 業種別 | 前連結会計年度 (平成17年3月31日現在) | | 当連結会計年度 (平成18年3月31日現在) | |
|--------------|---------------------------|--------|---------------------------|--------|
| | 貸出金残高(百万円) | 構成比(%) | 貸出金残高(百万円) | 構成比(%) |
| 製造業 | 4,000 | 40.90 | 2,000 | 25.41 |
| 農業、林業、漁業及び鉱業 | | | | |
| 建設業 | | | | |
| 運輸、情報通信、公益事業 | 4,780 | 48.88 | 4,870 | 61.88 |
| 卸売・小売業 | 1,000 | 10.22 | 1,000 | 12.71 |
| 金融・保険業 | | | | |
| 不動産業 | | | | |
| 各種サービス業 | | | | |
| 地方公共団体 | | | | |
| その他 | | | | |
| 合計 | 9,780 | 100.00 | 7,870 | 100.00 |

有価証券残高の状況

| | 前連結会計年度 (平成17年3月31日現在) | | 当連結会計年度 (平成18年3月31日現在) | |
|--------|---------------------------|------------|---------------------------|------------|
| | 有価証券残高 (百万円) | 構成比 (%) | 有価証券残高 (百万円) | 構成比 (%) |
| 国債 | 34,510 | 42.17 | 146,128 | 61.35 |
| その他の証券 | 47,329 | 57.83 | 92,076 | 38.65 |
| 合計 | 81,840 | 100.00 | 238,205 | 100.00 |

(単体情報)

(参考)

当行の単体情報のうち、参考として以下の情報を掲げております。

1 損益状況(単体)

(1) 損益の概要

| | 前事業年度 (百万円)(A) | 当事業年度 (百万円)(B) | 増減(百万円) (B) - (A) | |
|---------------------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------|---------|
| 業務粗利益 (除く国債等債券損益) | 1,522,861 (1,544,452) | 1,552,033 (1,562,354) | 29,172 (17,902) | |
| うち信託報酬 | 2,609 | 8,626 | 6,017 | |
| 経費(除く臨時処理分) | 582,365 | 586,459 | 4,094 | |
| 人件費 | 204,146 | 192,359 | 11,787 | |
| 物件費 | 341,534 | 360,720 | 19,186 | |
| 税金 | 36,684 | 33,379 | 3,305 | |
| 業務純益(一般貸倒引当金繰入前) (除く国債等債券損益) | 940,495 (962,086) | 965,573 (975,894) | 25,078 (13,808) | |
| 一般貸倒引当金繰入額 | 351,477 | 154,980 | 506,457 | |
| 業務純益 | 1,291,972 | 810,593 | 481,379 | |
| うち国債等債券損益 | 21,590 | 10,320 | 11,270 | |
| 臨時損益 | 1,363,653 | 89,659 | 1,273,994 | |
| 不良債権処理額 | 1,306,320 | 106,560 | 1,199,760 | |
| 貸出金償却 | 697,941 | 12,650 | 685,291 | |
| 個別貸倒引当金繰入額 | 474,155 | 15,825 | 458,330 | |
| 貸出債権売却損等 | 138,052 | 79,659 | 58,393 | |
| 特定海外債権引当勘定繰入額 | 3,828 | 1,575 | 2,253 | |
| 株式等損益 | 118,727 | 25,460 | 144,187 | |
| 株式等売却益 | 113,059 | 70,085 | 42,974 | |
| 株式等売却損 | 4,206 | 13,367 | 9,161 | |
| 株式等償却 | 227,580 | 31,257 | 196,323 | |
| その他臨時損益 | 61,394 | 8,559 | 69,953 | |
| 経常利益(は経常損失) | 71,680 | 720,933 | 792,613 | |
| 特別損益 | 28,398 | 25,739 | 54,137 | |
| うち動産不動産処分損益 | 12,495 | 1,457 | 13,952 | |
| 動産不動産処分益 | 1,381 | 4,157 | 2,776 | |
| 動産不動産処分損 | 13,877 | 2,699 | 11,178 | |
| うち退職給付会計基準変更時差異償却 | 16,001 | | 16,001 | |
| うち減損損失 | | 6,300 | 6,300 | |
| うち償却債権取立益 | 181 | 30,605 | 30,424 | |
| 税引前当期純利益(は税引前当期純損失) | 100,079 | 746,672 | 846,751 | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 6,379 | 13,512 | 7,133 | |
| 還付法人税等 | 8,184 | | 8,184 | |
| 法人税等調整額 | 38,579 | 213,639 | 175,060 | |
| 当期純利益(は当期純損失) | 136,854 | 519,520 | 656,374 | |
| 与信関係費用 | + - | 954,843 | 230,935 | 723,908 |

- (注) 1 業務粗利益 = (資金運用収支 + 金銭の信託運用見合費用) + 信託報酬 + 役務取引等収支 + 特定取引収支 + その他業務収支
2 「金銭の信託運用見合費用」とは、金銭の信託取得に係る資金調達費用であり、金銭の信託運用損益が臨時損益に計上されているため、業務費用から控除しているものであります。
3 業務純益 = 業務粗利益 - 経費(除く臨時処理分) - 一般貸倒引当金繰入額
4 臨時損益とは、損益計算書中「その他経常収益・費用」から一般貸倒引当金繰入額を除き、金銭の信託運用見合費用及び退職給付費用のうち臨時費用処理分等を加えたものであります。
5 国債等債券損益 = 国債等債券売却益 + 国債等債券償還益 - 国債等債券売却損 - 国債等債券償還損 - 国債等債券償却
6 当事業年度より償却債権取立益を与信関係費用に含めております。

(2) 営業経費の内訳

| | 前事業年度 (百万円)(A) | 当事業年度 (百万円)(B) | 増減(百万円) (B) - (A) |
|-----------|-------------------|-------------------|----------------------|
| 給料・手当 | 164,812 | 158,660 | 6,152 |
| 退職給付費用 | 37,677 | 28,952 | 8,725 |
| 福利厚生費 | 27,222 | 26,280 | 942 |
| 減価償却費 | 53,038 | 52,776 | 262 |
| 土地建物機械賃借料 | 47,476 | 46,802 | 674 |
| 営繕費 | 4,323 | 3,736 | 587 |
| 消耗品費 | 5,219 | 5,303 | 84 |
| 給水光熱費 | 5,025 | 4,926 | 99 |
| 旅費 | 2,422 | 2,764 | 342 |
| 通信費 | 6,855 | 6,813 | 42 |
| 広告宣伝費 | 4,952 | 10,671 | 5,719 |
| 租税公課 | 36,684 | 33,379 | 3,305 |
| その他 | 207,766 | 223,030 | 15,264 |
| 合計 | 603,477 | 604,098 | 621 |

(注) 臨時処理分を含むため、前頁の「経費(除く臨時処理分)」とは一致しません。

2 利鞘(国内業務部門)(単体)

| | 前事業年度 (%) (A) | 当事業年度 (%) (B) | 増減 (%) (B) - (A) |
|-------------|------------------|------------------|---------------------|
| (1) 資金運用利回り | 1.45 | 1.51 | 0.06 |
| 貸出金利回り | 1.78 | 1.71 | 0.07 |
| 有価証券利回り | 0.68 | 1.03 | 0.35 |
| (2) 資金調達原価 | 0.84 | 0.82 | 0.02 |
| 資金調達利回り | 0.09 | 0.07 | 0.02 |
| 預金等利回り | 0.02 | 0.02 | 0.00 |
| 外部負債利回り | 0.27 | 0.22 | 0.05 |
| 経費率 | 0.75 | 0.75 | 0.00 |
| (3) 総資金利鞘 | - | 0.61 | 0.69 |
| 預貸金利鞘 | - | 1.76 | 1.69 |

(注) 1 「国内業務部門」とは本邦店の円建諸取引であります。

2 「外部負債」 = コールマネー + 売現先勘定 + 債券貸借取引受入担保金 + 売渡手形 + コマーシャル・ペーパー + 借入金

3 ROE (単体)

| | 前事業年度 (%) (A) | 当事業年度 (%) (B) | 増減 (%) (B) - (A) |
|---------------------|------------------|------------------|---------------------|
| 業務純益(一般貸倒引当金繰入前)ベース | 61.58 | 50.25 | 11.33 |
| 業務純益ベース | 84.92 | 42.02 | 42.90 |
| 当期純利益ベース | | 26.57 | |

(注) 1 $ROE = \frac{\text{当期純利益等} - \text{優先株式配当金総額}}{\{(\text{期首株主資本} - \text{期首発行済優先株式数} \times \text{発行価額}) + (\text{期末株主資本} - \text{期末発行済優先株式数} \times \text{発行価額})\} \div 2} \times 100$

2 前事業年度の当期純利益ベースにつきましては、前事業年度において当期純損失が計上されているため、記載しておりません。

4 預金・貸出金の状況(単体)

(1) 銀行勘定

預金・貸出金の残高

| | 前事業年度 (百万円)(A) | 当事業年度 (百万円)(B) | 増減(百万円) (B) - (A) |
|---------|-------------------|-------------------|----------------------|
| 預金(未残) | 62,788,328 | 65,070,784 | 2,282,456 |
| 預金(平残) | 61,411,281 | 63,825,633 | 2,414,352 |
| 貸出金(未残) | 50,067,586 | 51,857,559 | 1,789,973 |
| 貸出金(平残) | 50,808,908 | 51,150,685 | 341,777 |

(注) 預金には譲渡性預金を含めておりません。

個人・法人別預金残高(国内)

| | 前事業年度 (百万円)(A) | 当事業年度 (百万円)(B) | 増減(百万円) (B) - (A) |
|----|-------------------|-------------------|----------------------|
| 個人 | 32,154,014 | 32,760,329 | 606,315 |
| 法人 | 28,455,616 | 30,347,382 | 1,891,766 |
| 合計 | 60,609,630 | 63,107,711 | 2,498,081 |

(注) 本支店間未達勘定整理前の計数であり、譲渡性預金及び特別国際金融取引勘定分を除いております。

消費者ローン残高

| | 前事業年度 (百万円)(A) | 当事業年度 (百万円)(B) | 増減(百万円) (B) - (A) |
|----------|-------------------|-------------------|----------------------|
| 消費者ローン残高 | 14,230,648 | 14,725,514 | 494,866 |
| 住宅ローン残高 | 13,240,449 | 13,771,812 | 531,363 |
| その他ローン残高 | 990,198 | 953,701 | 36,497 |

中小企業等貸出金

| | | 前事業年度 (A) | 当事業年度 (B) | 増減 (B) - (A) |
|--------------|-----|--------------|--------------|-----------------|
| 中小企業等貸出金残高 | 百万円 | 35,291,150 | 35,496,058 | 204,908 |
| 総貸出金残高 | 百万円 | 46,673,647 | 47,461,252 | 787,605 |
| 中小企業等貸出金比率 | / % | 75.61 | 74.78 | 0.83 |
| 中小企業等貸出先件数 | 件 | 1,856,723 | 1,916,788 | 60,065 |
| 総貸出先件数 | 件 | 1,861,303 | 1,921,182 | 59,879 |
| 中小企業等貸出先件数比率 | / % | 99.75 | 99.77 | 0.02 |

(注) 1 貸出金残高には、海外店分及び特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。

2 中小企業等とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、サービス業は5千万円)以下の会社又は常用する従業員が300人(ただし、卸売業は100人、小売業は50人、サービス業は100人)以下の会社及び個人であります。

(2) 信託勘定

元本補てん契約のある信託の元本・貸出金の残高

該当ありません。

元本補てん契約のある信託の個人・法人別元本残高

該当ありません。

消費者ローン残高

該当ありません。

中小企業等貸出金

| | | 前事業年度 (A) | 当事業年度 (B) | 増減 (B) - (A) |
|--------------|-----|--------------|--------------|-----------------|
| 中小企業等貸出金残高 | 百万円 | 4,780 | 4,870 | 90 |
| 総貸出金残高 | 百万円 | 9,780 | 7,870 | 1,910 |
| 中小企業等貸出金比率 | / % | 48.87 | 61.88 | 13.01 |
| 中小企業等貸出先件数 | 件 | 4 | 5 | 1 |
| 総貸出先件数 | 件 | 6 | 7 | 1 |
| 中小企業等貸出先件数比率 | / % | 66.66 | 71.42 | 4.76 |

(注) 中小企業等とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、サービス業は5千万円)以下の会社又は常用する従業員が300人(ただし、卸売業は100人、小売業は50人、サービス業は100人)以下の会社及び個人であります。

5 債務の保証(支払承諾)の状況(単体)

| 種類 | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|------|--------|-----------|--------|-----------|
| | 口数(口) | 金額(百万円) | 口数(口) | 金額(百万円) |
| 手形引受 | 1,553 | 61,723 | 1,794 | 65,181 |
| 信用状 | 21,347 | 921,920 | 26,023 | 968,225 |
| 保証 | 21,826 | 3,319,504 | 32,429 | 3,086,894 |
| 合計 | 44,726 | 4,303,148 | 60,246 | 4,120,300 |

6 内国為替の状況(単体)

| 区分 | | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|------|----------|---------|-------------|---------|-------------|
| | | 口数(千口) | 金額(百万円) | 口数(千口) | 金額(百万円) |
| 送金為替 | 各地へ向けた分 | 391,059 | 627,550,374 | 389,015 | 665,559,579 |
| | 各地より受けた分 | 269,543 | 683,691,666 | 292,230 | 779,990,627 |
| 代金取立 | 各地へ向けた分 | 4,118 | 10,365,156 | 3,899 | 9,811,270 |
| | 各地より受けた分 | 1,441 | 5,764,683 | 1,341 | 2,985,507 |

7 外国為替の状況(単体)

| 区分 | | 前事業年度 | 当事業年度 |
|-------|------|-----------|-----------|
| | | 金額(百万米ドル) | 金額(百万米ドル) |
| 仕向為替 | 売渡為替 | 621,165 | 828,876 |
| | 買入為替 | 247,970 | 396,601 |
| 被仕向為替 | 支払為替 | 480,880 | 570,178 |
| | 取立為替 | 24,987 | 26,986 |
| 合計 | | 1,375,004 | 1,822,643 |

8 併營業務の状況

| | 当事業年度 | | |
|----------------|----------|---------|------------|
| | 引受 1件 | 終了 件 | 期末現在 1件 |
| 財産に関する遺言の執行 | | | |
| 財産の取得及び処分の代理取扱 | 件 | | 百万円 |
| 取得 | () | | () |
| 処分 | () | | () |

(自己資本比率関係)

(参考)

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき自己資本比率の基準を定める件(平成5年大蔵省告示第55号。以下、「告示」という)に定められた算式に基づき、連結ベースと単体ベースの双方について算出しております。

なお、当行は、国際統一基準を適用のうえ、マーケット・リスク規制を導入しております。

連結自己資本比率(国際統一基準)

| 項目 | | 平成17年3月31日現在 | 平成18年3月31日現在 |
|---------------------------------------|---|--------------|--------------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) |
| 基本的項目 | 資本金 | 664,986 | 664,986 |
| | うち非累積的永久優先株(注1) | | |
| | 新株式申込証拠金 | | |
| | 新株式払込金 | | |
| | 資本剰余金 | 1,603,512 | 1,603,512 |
| | 利益剰余金 | 6,315 | 242,524 |
| | 連結子会社の少数株主持分 | 1,026,138 | 1,074,933 |
| | うち海外特別目的会社の発行する優先出資証券() | 816,926 | 835,214 |
| | その他有価証券の評価差損() | | |
| | 自己株式申込証拠金 | | |
| | 自己株式払込金 | | |
| | 自己株式() | | |
| | 為替換算調整勘定 | 81,050 | 44,568 |
| | 営業権相当額() | 8 | 6 |
| | 企業結合により計上される無形固定資産相当額() | | |
| | 連結調整勘定相当額() | | |
| | 繰延税金資産の控除前の基本的項目計 (上記各項目の合計額) | | 3,541,382 |
| | 繰延税金資産の控除金額() | | |
| | 計 (A) | 3,207,262 | 3,541,382 |
| うちステップ・アップ金利条項付の 優先出資証券(注2) | 193,176 | 211,464 | |
| 補完的項目 | その他有価証券の連結貸借対照表計上額の合計額 から帳簿価額の合計額を控除した額の45%相当額 | 305,401 | 605,793 |
| | 土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の 差額の45%相当額 | 67,103 | 39,934 |
| | 一般貸倒引当金 | 612,032 | 722,147 |
| | 負債性資本調達手段等 | 2,537,304 | 2,657,378 |
| | うち永久劣後債務(注3) | 879,968 | 1,035,778 |
| | うち期限付劣後債務及び期限付優先株(注4) | 1,657,335 | 1,621,600 |
| | 計 | 3,521,842 | 4,025,254 |
| | うち自己資本への算入額 (B) | 3,207,262 | 3,541,382 |
| 準補完的項目 | 短期劣後債務 | | |
| | うち自己資本への算入額 (C) | | |
| 控除項目 | 控除項目(注5) (D) | 238,920 | 308,195 |
| 自己資本額 | (A) + (B) + (C) - (D) (E) | 6,175,605 | 6,774,569 |
| リスク・ アセット等 | 資産(オン・バランス)項目 | 52,589,471 | 56,513,824 |
| | オフ・バランス取引項目 | 5,303,085 | 5,990,301 |
| | 信用リスク・アセットの額 (F) | 57,892,556 | 62,504,126 |
| | マーケット・リスク相当額に係る額 ((H) / 8%) (G) | 351,964 | 383,276 |
| | (参考)マーケット・リスク相当額 (H) | 28,157 | 30,662 |
| | 計((F) + (G)) (I) | 58,244,521 | 62,887,402 |
| 連結自己資本比率(国際統一基準) = (E) / (I) × 100(%) | | 10.60% | 10.77% |

- (注) 1 資本金の「うち非累積的永久優先株」については、非累積的永久優先株に係る資本項目別の残高内訳がないため記載しておりません。なお、基本的項目に含まれる非累積的永久優先株の額は1,310,003百万円です。
- 2 告示第4条第2項に掲げるもの、すなわち、ステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等(海外特別目的会社の発行する優先出資証券を含む。)であります。
- 3 告示第5条第1項第4号に掲げる負債性資本調達手段で次に掲げる性質のすべてを有するものであります。
- (1) 無担保で、かつ、他の債務に劣後する払込済のものであること。
 - (2) 一定の場合を除き、償還されないものであること。
 - (3) 業務を継続しながら損失の補てんに充当されるものであること。
 - (4) 利払い義務の延期が認められるものであること。
- 4 告示第5条第1項第5号及び第6号に掲げるものであります。ただし、期限付劣後債務は契約時における償還期間が5年を超えるものに限られております。
- 5 告示第7条第1項第1号に掲げる他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額、及び第2号に規定するものに対する投資に相当する額であります。

単体自己資本比率(国際統一基準)

| 項目 | | 平成17年 3月31日現在 | 平成18年 3月31日現在 |
|---------------------------------------|---|---------------|---------------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) |
| 基本的項目 | 資本金 | 664,986 | 664,986 |
| | うち非累積的永久優先株(注1) | | |
| | 新株式申込証拠金 | | |
| | 新株式払込金 | | |
| | 資本準備金 | 1,009,933 | 665,033 |
| | その他資本剰余金 | 357,614 | 702,514 |
| | 利益準備金 | | |
| | 任意積立金 | 221,532 | 221,502 |
| | 次期繰越利益 | 68,483 | 271,368 |
| | その他() | 784,252 | 840,794 |
| | その他有価証券の評価差損() | | |
| | 自己株式申込証拠金 | | |
| | 自己株式払込金 | | |
| | 自己株式() | | |
| | 営業権相当額() | | |
| | 企業結合により計上される無形固定資産相当額() | | |
| | 繰延税金資産の控除前の基本的項目計 (上記各項目の合計額) | | 3,366,200 |
| | 繰延税金資産の控除金額() | | |
| | 計 (A) | 3,106,803 | 3,366,200 |
| うちステップ・アップ金利条項付の 優先出資証券(注2) | 193,176 | 211,464 | |
| 補完的項目 | その他有価証券の貸借対照表計上額の合計額から 帳簿価額の合計額を控除した額の45%相当額 | 292,983 | 593,853 |
| | 土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の 差額の45%相当額 | 59,575 | 33,345 |
| | 一般貸倒引当金 | 417,555 | 572,536 |
| | 負債性資本調達手段等 | 2,498,304 | 2,605,378 |
| | うち永久劣後債務(注3) | 879,968 | 1,028,778 |
| | うち期限付劣後債務及び期限付優先株(注4) | 1,618,335 | 1,576,600 |
| | 計 | 3,268,419 | 3,805,114 |
| | うち自己資本への算入額 (B) | 3,106,803 | 3,366,200 |
| 準補完的項目 | 短期劣後債務 | | |
| | うち自己資本への算入額 (C) | | |
| 控除項目 | 控除項目(注5) (D) | 95,559 | 95,734 |
| 自己資本額 | (A) + (B) + (C) (D) (E) | 6,118,047 | 6,636,666 |
| リスク・ アセット等 | 資産(オン・バランス)項目 | 48,910,692 | 52,482,811 |
| | オフ・バランス取引項目 | 4,818,865 | 5,676,962 |
| | 信用リスク・アセットの額 (F) | 53,729,558 | 58,159,773 |
| | マーケット・リスク相当額に係る額 ((H) / 8%) (G) | 304,929 | 303,674 |
| | (参考)マーケット・リスク相当額 (H) | 24,394 | 24,293 |
| | 計((F) + (G)) (I) | 54,034,487 | 58,463,447 |
| 単体自己資本比率(国際統一基準) = (E) / (I) × 100(%) | | 11.32% | 11.35% |

- (注) 1 資本金の「うち非累積的永久優先株」については、非累積的永久優先株に係る資本項目別の残高内訳がないため記載しておりません。なお、基本的項目に含まれる非累積的永久優先株の額は1,310,003百万円であります。
- 2 告示第14条第2項に掲げるもの、すなわち、ステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等(海外特別目的会社の発行する優先出資証券を含む。)であります。
- 3 告示第15条第1項第4号に掲げる負債性資本調達手段で次に掲げる性質のすべてを有するものであります。
- (1) 無担保で、かつ、他の債務に劣後する払込済のものであること。
 - (2) 一定の場合を除き、償還されないものであること。
 - (3) 業務を継続しながら損失の補てんに充当されるものであること。
 - (4) 利払い義務の延期が認められるものであること。
- 4 告示第15条第1項第5号及び第6号に掲げるものであります。ただし、期限付劣後債務は契約時における償還期間が5年を超えるものに限られております。
- 5 告示第17条第1項に掲げる他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額であります。

() 「連結自己資本比率(国際統一基準)」における「基本的項目」の中の「うち海外特別目的会社の発行する優先出資証券」及び、「単体自己資本比率(国際統一基準)」における「基本的項目」の中の「その他」には、以下の3件の優先出資証券が含まれております。

| 発行体 | SB Treasury Company L.L.C.(“SBTC-LLC”) | SB Equity Securities (Cayman), Limited(“SBES”) | Sakura Preferred Capital (Cayman) Limited(“SPCL”) |
|-----------|--|---|--|
| 発行証券の種類 | 配当非累積的永久優先出資証券 | 配当非累積的永久優先出資証券 | 配当非累積的永久優先出資証券 |
| 発行期間 | 定めず | 定めず | 定めず |
| 任意償還 | 平成20年6月以降の各配当支払日 (ただし金融庁の事前承認が必要) | 平成21年6月以降の各配当支払日 (ただし金融庁の事前承認が必要) | 平成21年1月以降の各配当支払日 (ただし金融庁の事前承認が必要) |
| 発行総額 | 1,800百万米ドル | 340,000百万円 Series A-1 315,000百万円 Series A-2 5,000百万円 Series B 20,000百万円 | 283,750百万円 Initial Series 258,750百万円 Series B 25,000百万円 |
| 払込日 | 平成10年2月18日 | Series A-1 平成11年2月26日 Series A-2 平成11年3月26日 Series B 平成11年3月1日 | Initial Series 平成10年12月24日 Series B 平成11年3月30日 |
| 配当率 | 固定 (ただし平成20年6月の配当支払日 以降は、変動配当率が適用され るとともに、150ベース・ポイント のステップアップ金利が付される) | Series A-1 変動(金利ステッ プアップなし) Series A-2 変動(金利ステッ プアップなし) Series B 固定(ただし平成 21年6月の配当支 払日以降は変動配 当。金利ステッ プアップなし) | Initial Series 変動(金利ステッ プアップなし) Series B 変動(金利ステッ プアップなし) |
| 配当日 | 毎年6月・12月の最終営業日 | 毎年6月・12月の最終営業日 | 毎年7月24日と1月24日 (休日の場合は翌営業日) |
| 配当停止条件 | 以下のいずれかの事由が発生した 場合は、配当の支払いは停止され る(停止された配当は累積しない)。 当行が自己資本比率/Tier1比 率の最低水準を達成できない 場合(ただし配当停止は当行の 任意) 当行につき、清算、破産また は清算的会社更生が開始され た場合 当行優先株 ^{(注)2} または普通株へ の配当が停止され、かつ当行 が本優先出資証券への配当停 止を決めた場合 | 以下のいずれかの事由が発生した 場合は、配当の支払いは停止され る(停止された配当は累積しない)。 「損失吸収事由 ^{(注)1} 」が発生し た場合 当行優先株 ^{(注)2} への配当が停止 された場合 当行の配当可能利益が、当行 優先株 ^{(注)2} 及びSBTC-LLCが発行 した優先出資証券への年間配 当予定額の合計額以下となる 場合 当行普通株への配当が停止さ れ、かつ当行が本優先出資証 券 ^{(注)3} への配当停止を決めた場 合 | 以下のいずれかの事由が発生した 場合は、配当の支払いは停止され る(停止された配当は累積しない)。 当行優先株 ^{(注)2} について当行直 近営業年度にかかる配当が一 切支払われなかった場合 当行自己資本比率が規制上必 要な比率を下回った場合(但 し、下記の強制配当事由の不 存在を条件とする) 当行が発行会社に対し配当不 払いの通知をした場合(但し、 下記の強制配当事由の不存在 を条件とする) 当行が支払不能若しくは債務 超過である旨の通知を当行が 発行会社に行なった場合 |
| 配当制限 | 規定なし | 当行優先株 ^{(注)2} への配当が減額され た場合は本優先出資証券 ^{(注)3} への配 当も同じ割合で減額される。 | 当行優先株 ^{(注)2} への配当が減額され た場合は本優先出資証券 ^{(注)3} への配 当も同じ割合で減額される。 |
| 配当可能利益制限 | 規定なし | 本優先出資証券 ^{(注)3} への配当額は、 当行の配当可能利益/予想配当可 能利益から、当行優先株 ^{(注)2} 及び SBTC-LLCが発行した優先出資証券 への年間配当予定額を差し引い た、残余额の範囲内でなければ ならない ^{(注)4(注)5} 。 | 本優先出資証券 ^{(注)3} への配当金は、 直近営業年度の当行配当可能利 益額(当行優先株 ^{(注)2} への配当があ ればその額を控除した額)の範囲 内で支払われる ^{(注)6} 。 |
| 強制配当 | 当行直近営業年度につき当行株式 への配当が支払われた場合には、 同営業年度末を含む暦年の12月及 び翌暦年の6月における配当が全 額なされる。 | 当行直近営業年度につき当行普通 株式への配当が支払われた場合 には、同営業年度末を含む暦年の12 月及び翌暦年の6月における配当 が全額なされる。但し、上記「配 当停止条件」ないし、「配当 制限」及び「配当可能利益制限」 の制限に服する。 | 当行直近営業年度の当行普通株式 の中間又は期末配当が支払われた 場合には同営業年度末以降連続す る2配当支払日(同年度末を含む暦 年の7月及び翌暦年の1月)にお ける配当が全額なされる。但し、 上記の「配当停止条件」及び「配 当可能利益制限」の制限に服す る。 |
| 残余財産分配請求権 | 当行優先株 ^{(注)2} と同格 | 当行優先株 ^{(注)2} と同格 | 当行優先株 ^{(注)2} と同格 |

(注) 1 損失吸収事由

当行につき、自己資本比率 / Tier1比率の最低水準未達、債務不履行、債務超過、または「管理変更事由」(④清算事由<清算、破産または清算的会社更生>の発生、⑤会社更生、会社整理等の手続開始、⑥監督当局が、当行が支払不能または債務超過の状態にあること、または当行を公的管理に置くことを公表)が発生すること。ただし の場合は、配当を停止するかどうかは当行の任意。

2 当行優先株

自己資本比率規制上の基本的項目と認められる優先株。今後発行される優先株を含む。

3 本優先出資証券

当該発行体が今後新たに優先出資証券を発行した場合は、当該新発優先出資証券を含む。

4 SBESの配当可能利益制限における予想配当可能利益の勘案

当該現会計年度における本優先出資証券への年間配当予定額が、前会計年度末の当行の配当可能利益を基に計算した残余額の範囲内であっても、翌会計年度における本優先出資証券への年間配当予定額が、当該現会計年度末の当行の予想配当可能利益を基に計算した残余額を超える見込みである場合には、当該現会計年度における本優先出資証券への配当は、現会計年度末の予想配当可能利益を基に計算した残余額の範囲内で支払われる。

5 SBES以外の発行体から優先出資証券が発行されている場合の配当可能利益制限

SBES以外の当行連結子会社が、本優先出資証券と実質的に同条件の優先出資証券(「案分配当証券」)を発行している場合は、本優先出資証券への年間配当額は、案分配当証券がなければその限度額となる「残余額」に、本優先出資証券への年間配当予定額を分子、本優先出資証券への年間配当予定額と案分配当証券への年間配当予定額の和を分母とする分数を乗じて得られる金額の範囲内でなければならない。

6 SPCL以外の発行体から優先出資証券が発行されている場合の配当可能利益制限

SPCL以外の当行連結子会社が、配当受領権において当行優先株と同格の証券を発行している場合は、本優先出資証券への配当額は、直近営業年度の当行配当可能利益額(当行優先株への配当があればその額を控除した額)に、本優先出資証券への配当予定額を分子、本優先出資証券への配当予定額と当該連結子会社が発行する証券への配当予定額の和を分母とする分数を乗じて得られる金額の範囲内でなければならない。

(資産の査定)

(参考)

資産の査定は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(平成10年法律第132号)第6条に基づき、当行の貸借対照表の貸出金、外国為替、その他資産中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに欄外に注記することとされている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は貸借契約によるものに限る。)について債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として次のとおり区分するものであります。

1 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいう。

2 危険債権

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいう。

3 要管理債権

要管理債権とは、3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権をいう。

4 正常債権

正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権をいう。

資産の査定額

| 債権の区分 | 平成17年3月31日現在 | 平成18年3月31日現在 |
|-------------------|--------------|--------------|
| | 金額(億円) | 金額(億円) |
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 4,483 | 1,645 |
| 危険債権 | 9,244 | 4,734 |
| 要管理債権 | 4,519 | 3,222 |
| 正常債権 | 534,526 | 559,849 |

2 【生産、受注及び販売の状況】

「生産、受注及び販売の状況」は、銀行業における業務の特殊性のため、該当する情報がないので記載しておりません。

3 【対処すべき課題】

(1) 中長期的な経営戦略

当行グループが、今後、高い水準の高収益性及び成長性を実現し、企業価値を持続的に向上させるためには、「お客さま、株主・市場、社会から最高の信頼を得る」こと、すなわち、

常に変化するお客さまのニーズに的確に対応し、優れた商品・サービスを提供すること、
高いビジネスマインドを持って着実に収益の拡大を図り、磐石の財務体質を構築すること、
業務を通じて、広く我が国経済社会に貢献することにより社会的責任を果たすこと、

が重要であると考えます。

このような認識に基づき、当行は、平成17年度からの4年間を対象とする中期経営計画におきまして、次の五点を経営戦略の柱に据え、経営目標の達成に向けた諸施策を展開しております。

第一に、新たなリスク、新たな地域、新たな事業領域への挑戦によってトップライン収益を拡大し、十分な成長を実現してまいります。

第二に、重点分野強化に向けて経営資源を積極的に投入してまいります。一方、既存業務の効率化も引き続き進めてまいります。

第三に、各ビジネスにおけるリスク・リターン最適化と、資本・リスクアセットの再配置によって資本効率の向上を図り、収益性・成長性を極大化してまいります。

第四に、企業価値向上に繋がる合従連衡・提携に、積極的に取り組んでまいります。

第五に、企業価値の向上、CSR(企業の社会的責任)の実践のため、コーポレート・ガバナンスの高度化を進めてまいります。

(2) 対処すべき課題

当行は、平成17年12月、公正取引委員会より、過去の法人のお客さま向けの金利スワップの販売方法について独占禁止法における「優越的地位の濫用」に該当する行為が複数認められたとして勧告を受け、また、平成18年4月27日に金融庁より、当行の法人営業部における金利スワップの販売態勢等に関し、銀行法第26条第1項に基づく行政処分(業務停止命令並びに業務改善命令)を受けました。当行はこの事態を重く受け止め、役職員一同、再発防止と信頼回復に向け真摯に対応してまいります。

平成18年度につきましては、「お客さまの価値創造に資する質の高い商品・サービスの提供」及び「強固な企業基盤の構築」の二点に取り組み、今後、持続的成長を遂げていくための地歩を固めてまいりたいと考えております。

(お客さまの価値創造に資する質の高い商品・サービスの提供)

第一に、当行グループは、お客さまの視点に立ち、お客さまに対して付加価値の高い商品・サービスを提供することによって、「複合金融グループ」としての持続的成長を目指してまいります。

個人のお客さまにつきましては、コンサルティングビジネスの一段の高度化に取り組んでまいります。お客さまのニーズの多様化や規制緩和等の環境変化をタイムリーに捉えた新商品を開発・提供するとともに、これまで以上にお客さまの声を反映したサービスの提供に努めてまいります。また、平日夜間や休日にも営業するSMBCコンサルティングプラザ等の拠点網の拡充、高い専門性を持つコンサルタントの増員によって、お客さまのニーズへの対応力や利便性を一段と向上させてまいります。更に、他業界のリーディング・カンパニーやグループ会社との協働を通じたサービスも一段と充実させてまいります。具体的には、プロミス株式会社との提携によるコンシューマーローン、三井住友カード株式会社と株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモとの提携による「三井住友カードiD」を更に拡充するとともに、本年3月に発表いたしました、株式会社ジャパンネット銀行とヤフー株式会社との提携によるインターネット金融サービス、SMBCフレンド証券株式会社との協働による資産運用サービスの早期事業化等を進めてまいります。

法人のお客さまにつきましては、本年4月に「コーポレート・アドバイザー本部」を新設し、情報・ノウハウを集約することによって、事業拡大・企業再編等のお客さまの経営課題の解決に向けたソリューション提供力を一段と高度化、お客さまの企業価値向上に一層貢献してまいります。また、かねてご好評をいただいておりますビジネスセレクトローン等の中小企業の皆さま向けの無担保貸出や、シンジケート・ローン、債権流動化等につきましても引き続き推進し、多様化するお客さまの資金調達ニーズに的確に応えてまいります。加えて、三井住友銀リース株式会社による商品リース、不動産リース等の各種リース業務、株式会社日本総合研究所によるコアシステム受託やITコンサルティング業務、大和証券エスエムビーシー株式会社による投資銀行業務等、グループ一体となったお客さまへのソリューション提供をさらに推進してまいります。また、海外におきましても、経済成長の著しい地域における営業拠点の新設、プロジェクト・ファイナンス等の当行グループが強みを持つ業務のさらなる高度化や、内外連携体制の一段の整備によって、お客さまのグローバルなニーズに応えてまいります。市場営業業務におきましては、インターネットの活用等によるお客さまの利便性向上に努める一方、引き続き、適切なリスク管理の下、ALM体制の強化、運用手段の多様化に取り組んでまいります。

(強固な企業基盤の構築)

第二に、当行グループは、持続的成長を支える強固な企業基盤の構築に取り組んでまいります。

まず、当行グループは、コンプライアンス、リスク管理、内部監査等の内部管理体制を一段と高度化してまいります。コンプライアンスにつきましては、昨年12月の公正取引委員会からの勧告を踏まえ、本年4月、当行に「コンプライアンス部門」を新設、法令等の遵守を一層徹底してまいります。また、併せて新設した「品質管理部」を通じてお客さまのご意見や視点をより積極的に経営・業務に活かすとともに、増加する金融犯罪への対応も一段と強化してまいります。リスク管理につきましては、当行グループの事業範囲の拡大に対応した高度化をさらに進めるとともに、平成18年度末に予定されておりますパーゼル（新BIS規制）導入を踏まえた体制強化をグループ全体で推進してまいります。そして、これらのコンプライアンスやリスク管理等の有効性を一層厳格に検証するべく、内部監査体制を強化してまいります。更に、中長期的な視点での人材育成、女性従業員が一段と能力を発揮できる体制作り等、人材マネジメントの高度化に向けた取組みも進めてまいります。

また、当行グループは、質の高い収益体質を構築することによって資本の質・量両面での拡充を進め、財務基盤を一段と強化してまいります。

当行グループは、平成18年度、これらの取組みにおいて着実な成果を示すことにより、「お客さま、株主・市場、社会」からのご評価をさらに高めてまいりたいと考えております。

4 【事業等のリスク】

当行及び当行グループの事業その他に関するリスクについて、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項やその他リスク要因に該当しない事項であっても、投資者の投資判断上、重要であると考えられる事項について記載しております。また、これらのリスクは互いに独立するものではなく、ある事象の発生により他の様々なリスクが増大する可能性があることについてもご留意ください。なお、当行は、これらリスク発生の可能性を認識したうえで、発生を回避するための施策を講じるとともに、発生した場合には迅速かつ適切な対応に努める所存であります。

本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

1 不良債権問題

(1) 不良債権の状況

当行グループの不良債権残高は、取引先の経営状況の変化(業況の悪化、不祥事等の企業信頼性を失墜させる問題の発生等)や、景気動向並びに金利、株価及び不動産価格の変動といった内外の経済金融環境等の変化によって増加し、貸倒引当金積増し及び貸倒償却等の与信関係費用等が増加する可能性があります。これらの結果、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 貸倒引当金の状況

当行グループは、貸出金等の債権について、自己査定基準、償却引当基準に基づき、その信用リスクの程度に応じて、担保処分等による回収見込額及び貸倒実績率等を勘案した貸倒引当金を計上しております。不良債権残高の増加のほか、貸倒引当金計上額の計算の基礎となる貸出先の状況、担保価値及び貸倒実績率等の変動や、貸倒引当金計上に係る会計基準等の変更等により、当行グループが貸倒引当金を積み増す可能性があります。この結果、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 業種別貸出の状況

当行グループの取引先の中には、当該企業の属する業界が抱える固有の事情等の影響を受けている企業がありますが、内外の金融経済環境及び特定業種の抱える固有の事情の変化等により、当該業種に属する企業の財政状態が悪化する場合には、当行グループのこれら特定業種における不良債権残高及び与信関係費用等が増加し、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 貸出先への金融支援

当行グループは、債権の回収極大化を図るために、当行グループの貸出先に対する債権者としての法的権利を必ずしも行使せずに、状況に応じて債権放棄、デット・エクイティ・スワップ又は第三者割当増資の引受、追加貸出等の金融支援を行うことがあります。それにもかかわらず企業再建が奏功しない場合には、当行グループの不良債権残高及び与信関係費用等が増加し、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 他の金融機関における経営状態の悪化

本邦における他の金融機関の財政状態が悪化し、当該金融機関の流動性及び支払能力等に問題が発生した場合には、以下の事象が生じる可能性があります、いずれも当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当該金融機関による貸出先への融資の打ち切り又は引き上げにより、当該貸出先の経営状態の悪化又は破綻がおり、当該貸出先に対して当行グループが追加融資を求められたり、当行グループの不良債権残高及び与信関係費用等が増加したりする可能性があります。

当行グループが、当該問題の生じた金融機関に対する支援を要請される可能性があります。

当行グループが保有する当該金融機関の株式が減価する可能性及び当該金融機関宛与信に関する与信関係費用等が増加する可能性があります。

預金保険の基金が不十分となった場合に、預金保険料が引き上げられる可能性があります。

政府が経営を支配する金融機関の資本増強や収益増強のために、当該金融機関に対し経済的特典が与えられた場合に、当行グループは競争上の不利益を被る可能性があります。

2 保有株式に係るリスク

(1) 株式価値の低下リスク

当行グループは市場性のある株式等、大量の株式を保有しております。株式は価値の低下リスクがあるため、内外経済や株式市場の需給関係の悪化、発行体の経営状態の悪化等により株式の価値が低下する場合には、保有株式に減損処理及び評価損が発生し、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 株式の処分に関するリスク

当行グループは、株価下落による経営成績及び自己資本比率への影響を減らす等の財務上のリスク削減の観点等から、場合によっては損失が発生するのを承知しながら、継続的な株式の売却を行う可能性があります。また、継続的な売却は株式相場低迷の原因となる可能性があり、当行グループが保有する株式の減損処理額及び評価損を増加させる可能性があります。加えて、当行グループが保有している株式の多くは、従来の取引慣行の中で、取引先との良好な関係を築くために相互の株式を持ち合ってきたものであるため、こうした持合株式の売却は、取引先との関係の悪化や取引の減少を招く可能性があります。

3 トレーディング業務、保有債券等に係るリスク

当行グループは、デリバティブ取引を含む多種多様な金融商品を取扱うトレーディング業務や債券・ファンド等への投資を行っているため、当行グループの経営成績及び財政状態は、金利、為替、株価、債券価格、商品価格等の変動リスクに常に晒されております。例えば、金利が上昇したり債券の格付が引き下げられたりした場合、当行グループが保有する国債等の債券ポートフォリオの価値に影響を及ぼし、売却損や評価損等が発生する可能性があります。

また、市場の低迷等により流動性が低下した場合、収益の減少をもたらしたり、ポジションを機敏に解消することができずに損失が発生したりする等、当行グループの経営成績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

4 為替リスク

当行グループが保有する外貨建資産及び負債は、為替レートが変動した場合において、これら外貨建資産及び負債に係る為替リスクが相殺されないとき又は適切にヘッジされていないときは、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5 退職給付債務

当行グループの年金資産の運用利回りが期待運用収益率を下回った場合や退職給付債務を計算する前提となる割引率等の基礎率を変更した場合等には、数理計算上の差異が発生します。加えて、年金制度を変更した場合には過去勤務債務が発生します。これらの未認識債務は将来の一定期間にわたって損益として認識していくため、将来の退職給付費用が増加する可能性があり、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

6 自己資本比率

当行は海外営業拠点を有しておりますので、連結自己資本比率及び単体自己資本比率を「銀行法第14条の2の規定に基づき自己資本比率の基準を定める件」(平成5年大蔵省告示第55号)に定められる国際統一基準以上に維持する必要があります(現状、この国際統一基準において必要とされる自己資本比率は8%以上であります)。

一方、当行の連結子会社のうち海外営業拠点を有していない株式会社みなと銀行、株式会社関西アーバン銀行及び株式会社ジャパネット銀行(以下、この3行を総称して「当行の銀行子会社」という)については、連結自己資本比率及び単体自己資本比率を、同じく平成5年大蔵省告示第55号に定められる国内基準以上に維持する必要があります(現状、この国内基準において必要とされる自己資本比率は4%以上であります)。

当行グループ又は当行の銀行子会社の自己資本比率がこれらの基準を下回った場合、金融庁長官から自己資本比率に依りて、自己資本の充実に向けた様々な実行命令を受けるほか、業務の縮小や新規取扱いの禁止等を含む様々な命令を受けることとなります。また、海外銀行子会社についても、現地において自己資本比率規制が適用されており、同様に現地当局から様々な規制及び命令を受けることとなります。その場合、業務が制限されることにより、取引先に対して十分なサービスを提供することが困難となり、その結果、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当行グループ及び当行の銀行子会社の自己資本比率は、当行グループ及び当行の銀行子会社の経営成績の悪化や、本項「事業等のリスク」に記載する様々な要因が単独又は複合的に影響することによって低下する可能性があります。さらに、例えば次のような要因により自己資本比率が低下する可能性があります。

(1) 繰延税金資産の自己資本比率規制上の自己資本算入額に関する上限

わが国の自己資本比率規制において、繰延税金資産については、従来は貸借対照表計上額が全額自己資本の額に算入されておりましたが、平成17年12月に公布された自己資本比率規制の告示の改正により、主要行については、自己資本比率規制における自己資本のうち、基本的項目(Tier 1)に占める繰延税金資産の割合(上限)を、平成18年3月31日から平成19年3月30日までの間は40%、平成19年3月31日から平成20年3月30日までの間は30%、その後は20%と段階的に引き下げることとされました。かかる新規制の導入により、将来当行グループの自己資本比率規制上の自己資本の額が減少し、自己資本比率が低下する可能性があります。

(2) 繰延税金資産の貸借対照表計上額

現時点におけるわが国の会計基準に基づき、一定の条件の下で、将来における税金負担額の軽減効果として繰延税金資産を貸借対照表に計上することが認められております。貸借対照表に計上された繰延税金資産について、将来の課税所得見積額及び無税化スケジュール等の変更により、繰延税金資産の一部又は全部の回収が困難であると判断した場合は、当行グループの貸借対照表に計上する繰延税金資産の額を減額する可能性があります。その結果、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼし、自己資本比率が低下する可能性があります。

(3) 劣後債務

自己資本比率の算定においては、基本的項目の額を基礎とする一定の範囲内で、劣後債務を補完的項目として自己資本に算入することが認められております。当行グループの基本的項目の額が財政状態の悪化等何らかの要因により減少した場合、もしくは、自己資本算入期限の到来した劣後債務の借換えが困難となった場合には、当行グループの補完的項目として自己資本の額に算入される劣後債務の額が減少し、自己資本比率が低下する可能性があります。

(4) 新たな自己資本比率規制の導入

自己資本比率規制の告示の改正に伴い、平成18年度末(平成19年3月31日)より新たな自己資本比率規制(以下、バーゼル という)が導入されることとなりました。バーゼル では、債務者の信用状況等に応じてより精緻なリスク・ウェイトが適用されること、新たにオペレーショナルリスクに係るリスク・アセットを計上すること、銀行自身による適切なリスク管理や自己資本充実度を評価するプロセスに対し監督上の検証がなされること、開示の充実を通じて市場規律の実効性を高めること等、現行規制から大幅な変更がなされます。このバーゼル の導入により、当行グループの自己資本比率が変動する可能性があります。

7 当行グループに対する信用リスクの評価

(1) 外部格付の低下

当行及び当行グループ各社の格付が低下した場合、当行グループの資本及び資金調達における条件が悪化する、もしくは取引が制約される可能性があります、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) ジャパンプレミアム

過去に、本邦金融機関の破綻や資産内容の悪化等により、わが国の金融システム不安が高まった際に、外国金融機関は、邦銀に対する外貨資金供与等について、その金利にリスクプレミアムを上乗せしたり、与信額に制限を設けたりしました。このような事態が再燃した場合は、同様の措置がとられ、当行グループの資本及び資金調達費用が増加したり、外貨資金調達等に困難が生じたりするなど、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

8 決済リスク

当行グループは、内外の多くの金融機関と多様な取引を行っております。金融システム不安が発生した場合又は大規模なシステム障害が発生した場合に、金融市場における流動性が低下する等、決済が困難になるリスクがあります。また、一般のお客さまを対象とした決済業務において決済相手方の財政状況の悪化により決済が困難になるリスクがあります。これらの場合に、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

9 オペレーショナルリスク

当行グループが多様な業務を遂行していく際にはオペレーショナルリスクが存在し、内部及び外部の不正行為、労務管理面及び職場環境面での問題発生、お客さまへの商品勧誘や販売行為などにおける不適切な行為、自然災害等による被災やシステム障害等に伴う事業中断、並びに不適切な事務処理等、内部プロセス・人・システムが適切に機能しないことや外部で発生した事象により、損失が発生する可能性があります。これらの場合に、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(1) 事務リスク

当行グループのすべての業務に事務リスクが存在し、役職員等が事務に関する社内規程・手続等に定められたとおりの事務処理を怠る、あるいは事故、不正等をおこす可能性があります。この場合に、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) システム障害

当行グループが業務上使用している情報システムにおいては、安定的な稼働を維持するためのメンテナンス、バックアップシステムの確保、障害発生防止策を講じ、また、不測の事態に備えたコンティンジェンシープランを策定し、システムダウンや誤作動等の障害が万一発生した場合であっても安全かつ速やかに業務を継続できるよう体制の整備に万全を期しております。しかしながら、これらの施策にもかかわらず、品質不良、人為的ミス、外部からの不正アクセス、コンピューターウイルス、災害や停電等の要因によって障害が発生した場合、障害規模によっては当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

10 お客さまに関する情報の漏洩

当行グループは、膨大なお客さまに関する情報を保有しており、情報管理に関する規程及び体制の整備や役職員等に対する教育の徹底等により、お客さまに関する情報の管理には万全を期しております。しかしながら、悪意のある第三者によるコンピュータへの侵入や役職員等及び委託先の人為的ミス、事故等によりお客さまに関する情報が外部に漏洩した場合、お客さまからの損害賠償請求やお客さま及びマーケット等からの信頼失墜等により、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

11 当行グループのビジネス戦略

当行グループは、銀行業務を中心に、証券業務、投融資業務、融資業務、ベンチャーキャピタル業務等の各種金融サービスを行うグループ会社群によって構成されており、これらのグループ会社間のシナジー効果を発揮し付加価値の高い金融サービスを幅広く提供するために、様々なビジネス戦略を実施し、グループ全体の収益力の極大化を目指しております。しかし、例えば次のようなものをはじめとする様々な要因が生じた場合には、上記の戦略が奏功しないか又は当初想定した成果をもたらさない可能性があります。

- (1) 資金需要の減衰により、優良なお客さまへの貸出金が増えない又はリスクに見合った貸出利鞘の適正化が進まない場合
- (2) 預金の利鞘収益が縮小する場合
- (3) 手数料収入が期待どおりに増加しない場合
- (4) 既存業務の継続的な合理化による経費削減が進まない場合
- (5) グループ会社間のシナジー効果が期待どおりに発揮されない場合

12 他の金融機関との競争

当行グループは内外の銀行、証券会社、政府系金融機関、ノンバンク等との間で熾烈な競争関係にあります。今後、競争が現在以上に激化する場合には、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

13 合併事業、提携、買収及び経営統合

当行グループは従来、大和証券グループとの提携、ゴールドマン・サックスグループとの信用供与スキーム、プロミス株式会社とのコンシューマー・ファイナンス事業における提携、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモとのクレジットカード事業における提携、他金融機関等との運用合併会社の設立等、様々な戦略的提携を行ってきており、今後も同様の戦略的提携等を行っていく可能性があります。また、こうした提携や新規事業等は経済環境の変化、競争の激化等により十分な収益を確保できない可能性があります。なお、プロミス株式会社との提携につきましては、貸金業の規制等に関する法律等の改正等が行われた場合、提携事業のスキームに影響を及ぼす可能性があります。

14 業務範囲の拡大

(1) 国内の業務範囲の拡大

最近の規制緩和に伴い、当行グループは新たな収益機会を得るために業務範囲を拡大することがあります。当行グループが業務範囲を拡大することに伴い、新たなリスクに晒されます。当行グループは、拡大された業務範囲に関するリスクについては全く経験がないか又は限定的な経験しか有していないことがあります。当行グループが精通していない業務分野に進出した場合又は競争の激しい分野に進出した場合等において、当行グループの業務範囲の拡大が奏功しないか又は当初想定した成果をもたらさない可能性があります。

(2) 海外の業務範囲の拡大

経済のグローバル化が進展する中で、当行グループは海外業務を拡大する可能性があります。当行グループはその場合、金利・為替リスク、現地の税制・規制の変更リスク、社会・政治・経済情勢が変化するリスク等に直面することから、結果として、想定した収益をあげることができない可能性があります。

15 子会社、関連会社等に関するリスク

当行グループは、グループ内企業が相互に共同して営業活動を行っております。これらの会社の中には、当行グループの中核的業務である銀行業と比較して業績変動の大きい会社やリスクの種類や程度の異なる業務を行う会社もあります。当行グループがこれら子会社等への投資から便益を受けることができるかどうかは不確定であり、それらの会社の業績が悪化した場合に当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

16 政府機関による当行完全親会社の優先株式の保有

本報告書提出日(平成18年6月30日)現在において、政府機関である株式会社整理回収機構は、当行の完全親会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループの第二種優先株式及び第三種優先株式の全株式を保有しており、その全てについて、普通株式の交付と引換えに当該優先株式の取得を請求することが可能であります。

第二種優先株式及び第三種優先株式の取得請求に伴い普通株式が交付された場合、その普通株式数によっては、株式会社整理回収機構を通じた政府による当行グループの経営への関与が生じる可能性があります。

17 ゴールドマン・サックスグループによる当行完全親会社の優先株式の保有

本報告書提出日(平成18年6月30日)現在において、ゴールドマン・サックスグループは、当行完全親会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループの第1回から第12回迄の第四種優先株式(以下「第1回 - 第12回第四種優先株式」という)の全株式を保有しており、第1回 - 第12回第四種優先株式については、普通株式の交付と引換えに当該優先株式の取得を請求することが可能であります(ただし、第1回 - 第12回第四種優先株式の取得請求に伴い交付される普通株式の譲渡その他の処分については、株式会社三井住友フィナンシャルグループとゴールドマン・サックスグループが平成15年1月15日に締結した優先株式引受契約書に基づき、平成19年2月6日までは一定の場合を除き、それまでに第1回 - 第12回第四種優先株式の取得請求に伴い交付された普通株式の数と、残存している第1回 - 第12回第四種優先株式の全てがその時点において適用のある取得請求権行使価額で取得請求された場合に交付されるであろう普通株式の数の3分の2を超えてはかかる処分を行わない旨の制限が設けられております)。

第1回 - 第12回第四種優先株式の取得請求に伴い普通株式が交付された場合、その普通株式数によっては、ゴールドマン・サックスグループによる当行グループの経営への関与が生じる可能性があります。

18 自己株式の取得

当行グループは、自己株式の取得を行うことがあり、その結果、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

19 分配可能額

一定の状況又は条件の下では、会社法その他諸法令上の規制に基づいて算出される当行の分配可能額が減少するか、又はゼロとなる可能性があります。当行の海外特別目的子会社が発行する優先出資証券については、契約上、当行の分配可能額の水準によって配当支払が制限を受ける場合があるため、当行の分配可能額の水準によっては、当該優先出資証券の配当支払が困難もしくは不可能となる場合があります。

なお、当行は財務の柔軟性を確保することを目的として、株主総会決議等に基づき、法定準備金のその他資本剰余金への振替を実施する可能性があります。

20 有能な人材の確保

当行グループは幅広い分野で高い専門性を必要とする業務を行っておりますので、各分野において有能で熟練した人材が必要とされます。当行グループは、他の銀行及び証券会社等と競合関係にあるため、有能な人材を継続的に採用し定着を図ることが出来なかった場合には、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

21 重要な訴訟等

当行グループは、国内外において、銀行業務を中心に、証券業務、投融資業務、融資業務、ベンチャーキャピタル業務等の各種金融サービスを行うグループ会社群によって構成されており、付加価値の高い金融サービスを幅広く提供しています。こうした業務遂行の過程で、損害賠償請求訴訟等を提起されたり、損害に対する補償をしたりする可能性があります。その帰趨によっては、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

22 金融業界及び当行グループに対する否定的な報道

金融業界又は個別行を対象として、様々な問題に関する否定的な内容の報道がなされることがあります。これらの中には憶測に基づいたものや、必ずしも正確な事実に基づいていないと思われるものも含まれておりますが、報道された内容が正確であるか否かにかかわらず、又は当行グループが報道された内容に該当するか否かにかかわらず、これらの報道がお客さまや市場関係者等の理解・認識に影響を及ぼすことにより、当行グループのイメージや当行が発行した社債の流通価格が悪影響を受ける可能性があります。

23 各種の規則及び法制度等

(1) コンプライアンス体制等

当行グループは現時点における会社法、銀行法、証券取引法及び証券取引所が定める関係規則等の各種の規制及び法制度等に基づいて業務を行っております。当行グループは、法令その他諸規則等を遵守すべく、コンプライアンス体制及び内部管理体制の強化を経営上の最重要課題のひとつとして位置づけ、グループ各社の役職員等に対して適切な指示、指導及びモニタリングを行う体制を整備するとともに、不正行為の防止・発見のために予防策を講じております。しかし、役職員等が法令その他諸規則等を遵守できなかった場合、法的な検討が不十分であった場合又は予防策が効果を発揮せず役職員等による不正行為が行われた場合には、不測の損失が発生したり、行政処分や罰則を受けたり、業務に制限を付されたりするおそれがあり、また、お客さまからの損害賠償請求やお客さま及びマーケット等からの信頼失墜等により、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

なお、当行は、平成17年12月に公正取引委員会より、法人のお客さま向けの金利スワップの販売方法について、独占禁止法に定める不公正な取引方法の一類型である優越的地位の濫用に該当する行為が複数認められたとして、かかる行為を取り止めること、今後かかる行為を行うことのないよう内部規定を整備すること等を内容とする排除措置命令の勧告審決を受けております。当行は、この審決に従い、平成18年2月27日開催の取締役会において、かかる行為を取りやめることを決議し、また今後、かかる行為を行わないこととしております。さらに当行は、平成18年4月27日に金融庁より、法人営業部における金利スワップの販売態勢等に関し、銀行法第26条第1項に基づく行政処分(業務停止命令並びに業務改善命令)を受けております。当行は、これを真摯に受け止め、平成18年6月2日に金融庁に対し提出した業務改善計画に従い、再発防止策の実施や定着化に努めておりますが、お客さま及びマーケット等からの本件に関する信頼失墜や、上記勧告審決及び行政処分に起因する収益の減少、かかる処分に対処するための諸施策の実施等に伴う費用及び人的資源の投入等により、当行グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 経営の健全化のための計画

当行の完全親会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループは、「金融機能の早期健全化のための緊急措置に関する法律」に基づいて優先株式を発行し、「経営の健全化のための計画」を政府に提出するとともに、定期的な見直しを義務づけられております。同社は、経営健全化計画に係る平成17年3月期の収益目標と実績とが大幅に乖離していることなどから、経営健全化計画の履行を確保するための措置を講ずる必要があると認められることを理由として、平成17年7月22日に、金融庁より金融機能の早期健全化のための緊急措置に関する法律及び銀行法に基づき、業務改善計画の提出及びその着実な実施並びに同計画の履行が確保されていると認められるまでの間、平成17年9月期を初回として四半期毎の実施状況を2ヶ月以内に報告することを内容とする行政処分(業務改善命令)を受けております。かかる処分を受けたことを真摯に受け止め、引き続き経営努力を重ね、収益力の強化を通じ公的資金の早期返済に向け全力で取り組んで参る所存ですが、今後「業務改善計画」及び「経営の健全化のための計画」を達成できない場合には、さらなる行政処分を受け、あるいは、監督上の措置等を通じて当行グループの業務運営に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 各種の規制及び法制度等の変更

当行グループが国内外において業務を行うにあたって適用されている法律、規則、政策、実務慣行、会計制度及び税制等が変更された場合には、当行グループの業務運営に影響を与え、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当ありません。

6 【研究開発活動】

当連結会計年度の研究開発活動につきましては、その他事業(システム開発・情報処理業)を行う子会社において、業務システムに関する研究開発を行いました。なお、研究開発費の金額は45百万円です。

7 【財政状態及び経営成績の分析】

当連結会計年度の財政状態及び経営成績の分析は、以下のとおりであります。

なお、本項に記載した将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において判断したものであり、リスクと不確実性を内包しているため、今後様々な要因によって変化する可能性がありますので、ご注意ください。

当連結会計年度は、当行グループが競争優位性を有する戦略ビジネスの強化を進めることにより、確固たる収益水準を確保いたしました。また、持続的成長を支える財務基盤の強化の面でも成果を挙げました。

具体的には、まず、個人向けコンサルティング、中堅・中小企業向け無担保貸出、投資銀行ビジネス、アライアンス戦略といった戦略ビジネスを強化してまいりました。特に投資信託や個人年金保険販売、証券仲介業務といった顧客運用関連ビジネスが好調に推移したこと等により役務取引等収支(利益)が増加しました。更に、前連結会計年度にバランスシートのクリーンアップの総仕上げとして将来リスクへの対応力強化の観点から不良債権に係る財務上の一段の手当てを行ったこと等により、与信関係費用が大幅に減少した結果、当期純損益は前連結会計年度比8,425億円増益の5,635億円の利益となりました。

また、当連結会計年度末における当行の不良債権残高(金融再生法開示債権残高)は9,601億円、不良債権比率は1.7%となり、前連結会計年度対比ほぼ半減いたしました。

当連結会計年度末の連結自己資本比率(国際統一基準)は、当期純利益の計上による利益剰余金の増加等を主因として、前連結会計年度末比0.17%上昇して10.77%となりました。なお、繰延税金資産(繰延税金負債ネット後)がTier (基本的項目)に占める比率は27.4%と前連結会計年度末比19.5%減少しております。

当行グループといたしましては、今後も連結自己資本比率の充実に努めてまいります。

なお、当連結会計年度における主な項目の分析は、以下のとおりであります。

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|--------------------------------|---------|---------|----------|
| 連結粗利益 | 18,589 | 19,113 | 524 |
| 資金運用収支 | 11,526 | 11,403 | 122 |
| 信託報酬 | 26 | 86 | 60 |
| 役務取引等収支 | 4,191 | 5,068 | 877 |
| 特定取引収支 | 1,443 | 328 | 1,115 |
| その他業務収支 | 1,401 | 2,227 | 826 |
| 営業経費 | 7,692 | 7,678 | 13 |
| 不良債権処理額 | 11,670 | 3,061 | 8,608 |
| 貸出金償却 | 7,369 | 502 | 6,867 |
| 個別貸倒引当金繰入額 | 4,887 | 404 | 4,482 |
| 一般貸倒引当金繰入額 | 2,005 | 1,210 | 3,216 |
| その他 | 1,419 | 943 | 475 |
| 株式等損益 | 1,034 | 439 | 1,474 |
| 持分法による投資損益 | 32 | 48 | 81 |
| その他 | 778 | 143 | 922 |
| 経常利益(は経常損失) | 997 | 8,620 | 9,618 |
| 特別損益 | 769 | 239 | 1,009 |
| うち減損損失 | | 116 | 116 |
| うち償却債権取立益 | 7 | 311 | 304 |
| 税金等調整前当期純利益 (は税金等調整前当期純損失) | 1,766 | 8,860 | 10,627 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 163 | 452 | 289 |
| 還付法人税等 | 85 | | 85 |
| 法人税等調整額 | 452 | 2,197 | 1,745 |
| 少数株主利益 | 492 | 574 | 81 |
| 当期純利益(は当期純損失) | 2,789 | 5,635 | 8,425 |

(注) 連結粗利益 = (資金運用収益 - 資金調達費用) + 信託報酬 + (役務取引等収益 - 役務取引等費用)
+ (特定取引収益 - 特定取引費用) + (その他業務収益 - その他業務費用)

| | | | |
|-------------------|--------|-------|-------|
| 与信関係費用 (= -) | 11,670 | 2,750 | 8,920 |
|-------------------|--------|-------|-------|

(注) 当連結会計年度より償却債権取立益を与信関係費用に含めております。

1 経営成績の分析

(1) 主な収支

資金運用収支は、有価証券利息配当金が増加した一方で、貸出競争の激化等による預貸金利益の減少及び米ドル金利の上昇に伴う外貨バンキング収益の減少等を主因として、前連結会計年度比122億円減少して1兆1,403億円となりました。

信託報酬は、金銭信託及び金銭債権信託の取扱高増加等により、前連結会計年度比60億円増加して86億円となりました。

役務取引等収支は、投資信託・個人年金保険販売及び証券仲介業務等の顧客の運用関連手数料等が増加したことにより、前連結会計年度比877億円増加して5,068億円となりました。

特定取引収支は、前連結会計年度比1,115億円減少して328億円となりました。一方、その他業務収支は、前連結会計年度比826億円増加して2,227億円となりました。これは、外貨建特定取引(通貨スワップ等)とそのリスクヘッジのために行う外国為替取引等の損益が、財務会計上は「特定取引収支」と「その他業務収支」中の外国為替売買損益に区分して経理されることが主な要因であり、ヘッジの効果を踏まえた経済実態は、「特定取引収支」「その他業務収支」単独ではなく、両者の合算により判断する必要があります。

特定取引収支、その他業務収支の合計では、デリバティブ関連収益の減少を主因に前連結会計年度比289億円減少して2,555億円となります。

以上の結果、連結粗利益は、前連結会計年度比524億円増加して1兆9,113億円となりました。

営業経費は、既存業務については引き続き人員や事務システム関連経費等の合理化等による削減を進める一方、重点分野に対する積極的投資により物件費が増加したことから、前連結会計年度比ほぼ横這いの7,678億円となりました。

なお、連結業務純益は、前連結会計年度比1,752億円増加して1兆1,013億円となりました。

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|-----------------------|---------|---------|----------|
| 資金運用収支 | 11,526 | 11,403 | 122 |
| 資金運用収益 | 14,905 | 16,303 | 1,397 |
| 資金調達費用 | 3,378 | 4,899 | 1,520 |
| 信託報酬 | 26 | 86 | 60 |
| 役務取引等収支 | 4,191 | 5,068 | 877 |
| 役務取引等収益 | 5,118 | 6,048 | 930 |
| 役務取引等費用 | 926 | 979 | 53 |
| 特定取引収支 | 1,443 | 328 | 1,115 |
| 特定取引収益 | 1,445 | 328 | 1,117 |
| 特定取引費用 | 1 | | 1 |
| その他業務収支 | 1,401 | 2,227 | 826 |
| その他業務収益 | 3,128 | 3,602 | 473 |
| その他業務費用 | 1,727 | 1,375 | 352 |
| 連結粗利益 (= + + + +) | 18,589 | 19,113 | 524 |
| 営業経費 | 7,692 | 7,678 | 13 |
| 連結業務純益 | 9,261 | 11,013 | 1,752 |

(注) 連結業務純益 = 当行業務純益(一般貸倒引当金繰入前) + 連結子会社の経常利益(臨時要因調整後) + 持分法適用会社経常利益 × 持分割合 - 内部取引(配当等)

(2) 与信関係費用

与信関係費用は、当行において、前連結会計年度に不良債権処理問題の完全決着を図るべく、引当の一段の強化等のバランスシートのクリーンアップを行ったこと等により、前連結会計年度比8,920億円減少して2,750億円となりました。

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|----------------------|---------|---------|----------|
| 貸倒引当金繰入額 | 2,843 | 1,600 | 1,243 |
| 一般貸倒引当金繰入額 | 2,005 | 1,210 | 3,216 |
| 個別貸倒引当金繰入額 | 4,887 | 404 | 4,482 |
| 特定海外債権引当勘定繰入額 | 38 | 15 | 22 |
| 貸出金償却 | 7,369 | 502 | 6,867 |
| 貸出債権売却損等 | 1,457 | 959 | 497 |
| 償却債権取立益 | 7 | 311 | 304 |
| 与信関係費用 (= + + -) | 11,670 | 2,750 | 8,920 |

(注) 当連結会計年度より償却債権取立益を与信関係費用に含めております。

(3) 株式等損益

株式等損益は、前連結会計年度比1,474億円増加して439億円の利益となりました。

これは、株式等償却が減少したことが主な要因であります。

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|--------|---------|---------|----------|
| 株式等損益 | 1,034 | 439 | 1,474 |
| 株式等売却益 | 1,270 | 901 | 368 |
| 株式等売却損 | 67 | 139 | 72 |
| 株式等償却 | 2,237 | 322 | 1,915 |

2 財政状態の分析

(1) 貸出金

貸出金は、当行において、住宅ローンや中堅・中小企業向け無担保貸出を中心に積極的に投入したことに加え、海外での貸出金の増加等により、前連結会計年度末比2兆2,918億円増加して57兆4,407億円となりました。

なお、住宅ローンについては、前連結会計年度末比6,405億円増加して15兆1,313億円となりました。

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|------------|---------|---------|----------|
| 貸出金残高(未残) | 551,489 | 574,407 | 22,918 |
| うちリスク管理債権 | 21,867 | 12,194 | 9,674 |
| うち住宅ローン(注) | 144,908 | 151,313 | 6,405 |

(注) 当行及び国内銀行子会社の単体計数を単純合算して表示しております。

当行グループのリスク管理債権は、前連結会計年度末比9,674億円減少して1兆2,194億円となりました。

債権区分別では、破綻先債権額が86億円、延滞債権額が6,731億円、3カ月以上延滞債権額が49億円及び貸出条件緩和債権額が2,808億円とそれぞれ減少しております。その結果、貸出金残高比率は、前連結会計年度末比1.9%減少して2.1%となりました。

リスク管理債権の状況

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|-----------|---------|---------|----------|
| 破綻先債権 | 682 | 597 | 86 |
| 延滞債権 | 13,678 | 6,946 | 6,731 |
| 3カ月以上延滞債権 | 294 | 246 | 49 |
| 貸出条件緩和債権 | 7,213 | 4,405 | 2,808 |
| 合計 | 21,867 | 12,194 | 9,674 |
| 直接減額実施額 | 16,996 | 7,693 | 9,303 |
| 貸出金残高(未残) | 551,489 | 574,407 | 22,918 |

貸出金残高比率

(単位 %)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|-------------------|---------|---------|----------|
| 破綻先債権 (= /) | 0.1 | 0.1 | 0.0 |
| 延滞債権 (= /) | 2.5 | 1.2 | 1.3 |
| 3カ月以上延滞債権 (= /) | 0.1 | 0.0 | 0.1 |
| 貸出条件緩和債権 (= /) | 1.3 | 0.8 | 0.5 |
| 合計 | 4.0 | 2.1 | 1.9 |

リスク管理債権の地域別構成と業種別構成

リスク管理債権の地域別構成(単体)

(金額単位 億円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 | 前事業年度比 |
|--------|--------|-------|--------|
| 国内 | 17,036 | 8,668 | 8,368 |
| 海外 | 323 | 474 | 151 |
| アジア | 97 | 344 | 247 |
| インドネシア | 33 | 22 | 11 |
| 香港 | 3 | 137 | 134 |
| インド | 11 | | 11 |
| 中国 | 2 | 18 | 16 |
| その他 | 48 | 167 | 119 |
| 北米 | 215 | 126 | 89 |
| 中南米 | 5 | | 5 |
| 西欧 | 6 | 4 | 2 |
| 東欧 | | | |
| 合計 | 17,359 | 9,142 | 8,217 |

(注) 1 「国内」は国内店(特別国際金融取引勘定を除く)の合計です。

「海外」は海外店(特別国際金融取引勘定を含む)の合計です。

2 債務者所在国を基準に集計しています。

リスク管理債権の業種別構成(単体)

(金額単位 億円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 | 前事業年度比 |
|--------------|--------|-------|--------|
| 国内 | 17,036 | 8,668 | 8,368 |
| 製造業 | 813 | 646 | 167 |
| 農業、林業、漁業及び鉱業 | 7 | 32 | 25 |
| 建設業 | 3,422 | 399 | 3,023 |
| 運輸、情報通信、公益事業 | 334 | 794 | 460 |
| 卸売・小売業 | 1,033 | 911 | 122 |
| 金融・保険業 | 945 | 135 | 810 |
| 不動産業 | 3,965 | 2,572 | 1,393 |
| 各種サービス業 | 4,502 | 2,546 | 1,956 |
| 地方公共団体 | | | |
| その他 | 2,015 | 633 | 1,382 |
| 海外 | 323 | 474 | 151 |
| 政府等 | 1 | | 1 |
| 金融機関 | 3 | | 3 |
| 商工業 | 319 | 474 | 155 |
| その他 | | | |
| 合計 | 17,359 | 9,142 | 8,217 |

(注) 「国内」は国内店(特別国際金融取引勘定を除く)の合計です。

「海外」は海外店(特別国際金融取引勘定を含む)の合計です。

また、当行単体の金融再生法開示債権と保全状況は以下のとおりであります。

金融再生法開示債権は、前事業年度末比8,645億円減少して9,601億円となりました。その結果、不良債権比率は、前事業年度末比1.6%減少して1.7%となりました。また、債権区分別では、破産更生債権及びこれらに準ずる債権が2,838億円減少して1,645億円、危険債権が4,510億円減少して4,734億円、要管理債権が1,297億円減少して3,222億円となりました。

これは、債権売却等のオフバランス化を引き続き進めてきたことや企業の再生努力に積極的に関与したことに加え、予てより強化してきた劣化防止への取組みが効果をあげてきたこと等によるものであります。開示債権の保全状況は、金融再生法開示債権9,601億円に対して、貸倒引当金による保全が3,561億円、担保保証等による保全が5,173億円となり、保全率は91.0%となっております。

金融再生法開示債権(単体)

(金額単位 億円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 | 前事業年度比 |
|-------------------|---------|---------|--------|
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 4,483 | 1,645 | 2,838 |
| 危険債権 | 9,244 | 4,734 | 4,510 |
| 要管理債権 | 4,519 | 3,222 | 1,297 |
| 合計 | 18,246 | 9,601 | 8,645 |
| 正常債権 | 534,526 | 559,849 | 25,323 |
| 総計 | 552,772 | 569,450 | 16,678 |
| 不良債権比率 (= /) | 3.3% | 1.7% | 1.6% |
| 直接減額実施額 | 15,318 | 6,036 | 9,282 |

(金額単位 億円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 | 前事業年度比 |
|-------|--------|-------|--------|
| 保全額 | 16,520 | 8,734 | 7,786 |
| 貸倒引当金 | 6,922 | 3,561 | 3,361 |
| 担保保証等 | 9,598 | 5,173 | 4,425 |

(注) 貸倒引当金には、個別貸倒引当金及び要管理債権に対して計上している一般貸倒引当金の合計額を計上しております。

| | | | |
|---------------------------------------|--------|--------|-------|
| 保全率 (= /) | 90.5% | 91.0% | 0.5% |
| 貸倒引当金総額を分子に算入した場合の保全率 | 106.8% | 138.9% | 32.1% |
| 担保保証等控除後の開示債権に対する引当率 (= / (-)) | 80.0% | 80.4% | 0.4% |
| 貸倒引当金総額を分子に算入した場合の引当率 | 114.4% | 184.4% | 70.0% |

(2) 有価証券

有価証券は、金利動向を踏まえたオペレーションにより国債が前連結会計年度末比2兆704億円減少した一方で、株価の上昇により株式が前連結会計年度末比9,278億円、外国債券を主としたその他の証券が1兆5,221億円増加したこと等により、前連結会計年度末比1兆2,151億円増加して25兆2,337億円となりました。

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|-----------|---------|---------|----------|
| 有価証券 | 240,186 | 252,337 | 12,151 |
| 国債 | 136,365 | 115,660 | 20,704 |
| 地方債 | 4,868 | 6,077 | 1,208 |
| 社債 | 32,434 | 39,580 | 7,146 |
| 株式 | 33,165 | 42,444 | 9,278 |
| うち時価のあるもの | 28,071 | 37,614 | 9,543 |
| その他の証券 | 33,351 | 48,573 | 15,221 |

(注) 「その他の証券」には、外国債券及び外国株式を含んでおります。

[ご参考]有価証券等の評価損益(単体)

(金額単位 億円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 | 前事業年度比 |
|------------|-------|--------|--------|
| 満期保有目的の債券 | 18 | 307 | 289 |
| 子会社・関連会社株式 | 603 | 2,675 | 2,072 |
| その他有価証券 | 6,513 | 13,162 | 6,648 |
| うち株式 | 6,673 | 16,324 | 9,650 |
| うち債券 | 77 | 2,822 | 2,899 |
| その他の金銭の信託 | 2 | 2 | 0 |
| 合計 | 7,100 | 15,532 | 8,431 |

(3) 繰延税金資産

繰延税金資産は、税引前利益の計上による回収に加え、その他有価証券の含み益が増加した影響等により、前連結会計年度末比5,328億円減少して1兆173億円となりました。

繰延税金資産の計上は、財務の健全性確保の観点から前期に引き続き保守的に行っております。

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|--------|---------|---------|----------|
| 繰延税金資産 | 15,502 | 10,173 | 5,328 |
| 繰延税金負債 | 450 | 484 | 33 |

なお、当行単体の繰延税金資産は、前事業年度末比5,260億円減少して9,762億円となりました。

計上額の内訳としては、不良債権処理関連、有価証券償却及び税務上の繰越欠損金に係るものが主であります。

〔当行単体〕

(金額単位 億円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 | 前事業年度比 |
|-----------------------------|--------|--------|--------|
| 繰延税金資産 | 23,791 | 20,773 | 3,018 |
| 貸倒引当金 | 3,154 | 2,507 | 647 |
| 貸出金償却 | 5,621 | 1,702 | 3,919 |
| 有価証券有税償却 | 5,330 | 4,477 | 853 |
| 退職給付引当金 | 769 | 744 | 25 |
| 減価償却限度超過額 | 61 | 65 | 4 |
| その他有価証券評価差額金 | | | |
| 税務上の繰越欠損金 | 8,228 | 10,874 | 2,646 |
| その他 | 628 | 404 | 224 |
| 評価性引当額 | 5,533 | 5,046 | 487 |
| 評価性引当額控除後繰延税金資産合計 (= -) | 18,258 | 15,727 | 2,531 |
| 繰延税金負債 | 3,236 | 5,965 | 2,729 |
| 退職給付信託設定益 | 517 | 516 | 1 |
| その他有価証券評価差額金 | 2,645 | 5,362 | 2,717 |
| その他 | 74 | 87 | 13 |
| 繰延税金資産の計上額 (= -) | 15,022 | 9,762 | 5,260 |

(4) 預金

預金は、流動性預金が個人・法人ともに増加したこと等により、前連結会計年度末比2兆3,553億円増加して70兆8,641億円となりました。

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|-------------|---------|---------|----------|
| 預金 | 685,088 | 708,641 | 23,553 |
| うち国内個人預金(注) | 358,750 | 366,258 | 7,507 |
| うち国内法人預金(注) | 296,023 | 315,283 | 19,259 |

(注) 当行及び国内銀行子会社の単体計数を単純合算して表示しております。

(5) 資本の部

資本の部合計は、前連結会計年度末比9,643億円増加して3兆5,982億円となりました。

利益剰余金は、344億円の配当を行った一方で、当期純利益5,635億円の計上等により、前連結会計年度末比5,488億円増加して5,425億円となりました。

その他有価証券評価差額金は、株価の上昇等により、前連結会計年度末比3,987億円増加して7,937億円となりました。

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|----------------|---------|---------|----------|
| 資本の部合計 | 26,339 | 35,982 | 9,643 |
| うち資本金 | 6,649 | 6,649 | |
| うち資本剰余金 | 16,035 | 16,035 | |
| うち利益剰余金 | 62 | 5,425 | 5,488 |
| うちその他有価証券評価差額金 | 3,949 | 7,937 | 3,987 |
| うち自己株式 | | | |

なお、株式会社三井住友フィナンシャルグループ単体及び当行単体の資本の部は以下のとおりであります。

〔株式会社三井住友フィナンシャルグループ単体〕

(金額単位 億円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 | 前事業年度比 |
|----------------|--------|--------|--------|
| 資本の部合計 | 33,196 | 39,354 | 6,158 |
| うち資本金 | 13,526 | 14,208 | 682 |
| うち資本剰余金 | 18,522 | 21,053 | 2,531 |
| うちその他資本剰余金 | 4,995 | 6,844 | 1,848 |
| うち利益剰余金 | 3,845 | 4,135 | 290 |
| うちその他有価証券評価差額金 | | | |
| うち自己株式 | 2,698 | 43 | 2,654 |

〔当行単体〕

(金額単位 億円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 | 前事業年度比 |
|----------------|--------|--------|--------|
| 資本の部合計 | 27,527 | 36,347 | 8,820 |
| うち資本金 | 6,649 | 6,649 | |
| うち資本剰余金 | 13,675 | 13,675 | |
| うちその他資本剰余金 | 3,576 | 7,025 | 3,449 |
| うち利益剰余金 | 2,913 | 7,940 | 5,027 |
| うちその他有価証券評価差額金 | 3,865 | 7,834 | 3,969 |
| うち自己株式 | | | |

3 連結自己資本比率(国際統一基準)

自己資本額は、前連結会計年度末比5,989億円増加して6兆7,745億円となりました。

これは、当期純利益の計上により利益剰余金が増加したことに加え、株式相場の上昇によりその他有価証券の評価益が増加したことが主な要因であります。

リスク・アセット等は、住宅ローンや中堅・中小企業向け無担保貸出を積極的に投入したこと及び海外での貸出の増加等により、前連結会計年度末比4兆6,428億円増加して62兆8,874億円となりました。

以上の結果、連結自己資本比率は、前連結会計年度末比0.17%上昇して10.77%となりました。

(金額単位 億円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度比 |
|---|---------|---------|----------|
| 連結自己資本比率(国際統一基準) | 10.60% | 10.77% | 0.17% |
| 基本的項目 | | | |
| 資本金 | 6,649 | 6,649 | |
| 資本剰余金 | 16,035 | 16,035 | |
| 利益剰余金 | 63 | 2,425 | 2,488 |
| 連結子会社の少数株主持分 | 10,261 | 10,749 | 487 |
| その他有価証券の評価差損() | | | |
| 自己株式() | | | |
| 為替換算調整勘定 | 810 | 445 | 364 |
| 営業権相当額() | 0 | 0 | 0 |
| 連結調整勘定相当額() | | | |
| 計 | 32,072 | 35,413 | 3,341 |
| 補完的項目 | | | |
| その他有価証券の連結貸借対照表計上額の合計額から帳簿価額の合計額を控除した額の45%相当額 | 3,054 | 6,057 | 3,003 |
| 土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額 | 671 | 399 | 271 |
| 一般貸倒引当金 | 6,120 | 7,221 | 1,101 |
| 負債性資本調達手段等 | 25,373 | 26,573 | 1,200 |
| 計 | 35,218 | 40,252 | 5,034 |
| うち自己資本への算入額 | 32,072 | 35,413 | 3,341 |
| 控除項目 | 2,389 | 3,081 | 692 |
| 自己資本額 (= + -) | 61,756 | 67,745 | 5,989 |
| リスク・アセット等 | 582,445 | 628,874 | 46,428 |